



指南車 上巻
 西園 順礼 石 志 屋
 菱 方 角 繪 景 性
 年 野 田 氏 此 修 人
 ら 道 七 十 九 板 紙
 と 一 一 一 一 一 一 一 一
 世 間 又 一 一 一 一 一 一 一
 後 一 一 一 一 一 一 一 一
 此 靈 場 を 委 交
 り ぐ ぐ 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一
 等 拾 八 一 一 一 一 一 一 一



多禮大師此を
 川女志也此は
 石の月うげに書
 集めしと芳野
 橋本ふりうはけ
 奈は乃ととらぬ
 至禮儀の筆乃
 皮ふそ英法紙
 うつし名不附
 文しぬ後人紀
 終せんぬ此小
 冊ニツ乃まねを

徒よせば里人
 る所求めどして
 未嘗れ若ふかく
 婦トのふ乃る
 我ハ武彦此は
 ことらりて七半
 とるとも多岐の
 まづらひなうらん
 ものぬまう云

時天明と改る年

辛丑の四月

風益斬

臺登 藤

九例

一本堂より右へ移たり
一約と云ふるを此中
より此はも乃た右と
知るを

△此下地及沖記
の處り此宿付

△石の付いける也

△この下の下み阿る

△此下と石のり乃

内より宿をわり

△白さいまる不名

不宿家なる此村名

と云ふべし

此内及こけて書

くると十丁廿丁

又二二り三りもゆる

るかり日記と片

むふと紙いふ人

を此宿をうらむ

類目次

一順礼録起同款

一江戸が東海乃

一糸原系といせり

一八巻山紙々此村名

よりまたふと云ふ

も此山

よりの大冢

一石いざん

一糸大坂兵庫島名所

一竹生崎のくが乃

一本島海乃

一若光寺あり

一日光山乃

一犬坂よりまぎるくうら

る此山をそとていふ

はがさる乃

一備方へのまうまら

くましくまらす

于二枚札のきやう

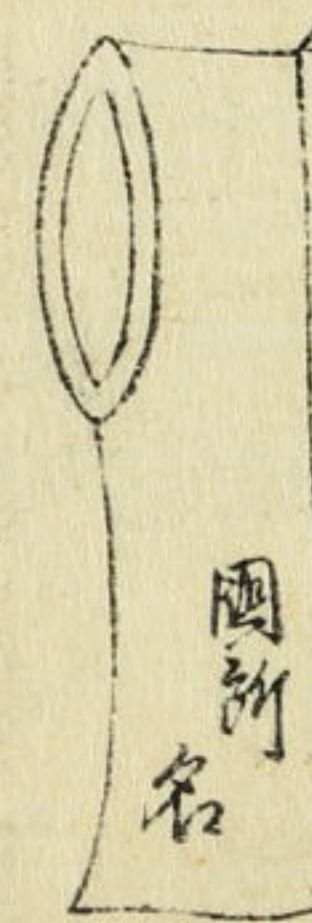
奉納西國三所^{年号月日}何

南無大慈悲觀世音菩薩



年号月日 何人

西國三



西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

西國三

出花ふるうの幸
しあいの世がうとあ
して法名入る
と中なるを法い
仏神をいのりあ
うるありあけあ
んざんは果とあ
ひりたうふゆあ
背あんま大王い
れ悪人を地ぐ
押らりあけあ
金泥法花經一
悪うふうとり
ためにくせした
けるそのごじに
まは國志よあ

あまうとうと人と
あいの世よせあ
花經とまんたら
母りあんと人の
りあを教くいあ
れあ生中とくあ
うとととととと
しあんと大王あ
後らばあやむに
せあんの果地三
不ありけまあ
一度あれせあ
あんとあ現あ
あん後生あ果
らしあんの言あ
語あらがあ

北にゆく一抄のなりと
石に指をえをえとく
下しぬふと人なげ
持ちくも法の國中ふ
ちふ世なれなふ也
西も北果は新ひ
あや絶するを
おらしてけ靈場と
呪れくたまへは
らぬとくしと何りて
法皇法威するを
と儀よとわい何り
て眼と人とわいも
ふめさき十若万家
此大君石と北と坂

お色けのやをえとら
もねいといるく三月
十七日那知ふ
まうでま色ぐ尔現
をうむり六月廿日
その國たふとえん
みて二十三新結頼
しれまよとかり
眼と人此さい
海内此國あり
法皇の法持物
答此は仏を
世ち乃重物なり

三十三番

御歌

三つから十國のいり

ふたつをいりては

三つをいりては

ひくたはは

三つから十國のいり

ふたつをいりては

三つをいりては

ひくたはは

三つから十國のいり

ふたつをいりては

三つをいりては

ひくたはは

三つから十國のいり

ふたつをいりては

三つをいりては

ひくたはは

三つから十國のいり

ふたつをいりては

三つをいりては

ひくたはは

三つから十國のいり

ふたつをいりては

三つをいりては

ひくたはは

三つから十國のいり

ふたつをいりては

三つをいりては

ひくたはは

三つから十國のいり

ふたつをいりては

三つをいりては

ひくたはは

たごるらあんあんぞう
たごるらあんあんぞうに
うかたてこうこねらふ
らるこうあぐも

十たごるらあんあんぞう
よもこうあぐもあぐも
まけけがらあぐもあぐも
たごるらあんあんぞう

十たごるらあんあんぞう
あぐもあぐもあぐもあぐも
あぐもあぐもあぐもあぐも
たごるらあんあんぞう

十たごるらあんあんぞう
あぐもあぐもあぐもあぐも
あぐもあぐもあぐもあぐも
たごるらあんあんぞう

十たごるらあんあんぞう
のらあをねらあんあんぞう
あぐもあぐもあぐもあぐも
たごるらあんあんぞう

十たごるらあんあんぞう
あぐもあぐもあぐもあぐも
あぐもあぐもあぐもあぐも
たごるらあんあんぞう

十たごるらあんあんぞう
あぐもあぐもあぐもあぐも
あぐもあぐもあぐもあぐも
たごるらあんあんぞう

十たごるらあんあんぞう
あぐもあぐもあぐもあぐも
あぐもあぐもあぐもあぐも
たごるらあんあんぞう

十七年系社止むらさき
押さくしよあつのついで
よしあはしむらさきふ
まゝのあつあつ

十八年系社止むらさき
よしあはしむらさきふ
まゝのあつあつ

十九年系社止むらさき
よしあはしむらさきふ
まゝのあつあつ

二十年系社止むらさき
よしあはしむらさきふ
まゝのあつあつ

廿一年系社止むらさき
よしあはしむらさきふ
まゝのあつあつ

廿二年系社止むらさき
よしあはしむらさきふ
まゝのあつあつ

廿三年系社止むらさき
よしあはしむらさきふ
まゝのあつあつ

廿四年系社止むらさき
よしあはしむらさきふ
まゝのあつあつ

廿五夜くらげのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ

廿六夜くらげのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ

廿七夜くらげのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ

廿八夜くらげのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ

廿九夜くらげのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ

三十夜くらげのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ

三十一夜くらげのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ
あまのこよあ

世に云ふのたふさ
よきことなげはらふ
何はらふことなり
と云ふなりけり

この世にあらむこと
なむ母くこといへり
つらふたふさ

いまそむ母とたのじ
世のつらぬきや世に
このたふさ

南無大慈大悲の
観世音 種々
十罪又遂消滅
自他平等 尊
身成佛

東海道

系 石法付
いせ

詔 安永三年十一月より
三よりま
内定此通る人足らん
と云ふものなり
本たりん人足二人分
からまう人足一人分
少くお遠くは世も
大母うまかくれ
世に云ふ徳ハ二刻ま
なり

本宿北系

△ 石の宿系
たてむの系

△ 系系名所
諸方王うま

江戸日本橋
▲大木戸

▲本町
▲五ノ

六十
▲多田五七
▲観音堂

▲志家川

武り
▲五ノケリ

七十
▲六ノケリ
▲川町

▲川

武り
▲つら

七十
▲なまじき
▲新町

▲川

▲志家川

一り
▲たりの
▲あさまし宮あり

九丁
▲かいまけ
▲大ふぶらう

▲不どぐや

二り
▲さうい木
▲あまの坂

六十
▲吉田むく
▲魚のまぬかまらる

▲と川

▲えさ

▲もら宿
▲うけむ村

▲松坂

▲ふらさの橋より
▲志家川

▲志家川
▲志家川

二丁

▲ふらた

▲車田

▲のらぬへきり九丁

▲旧ツ家

▲左三太山たあう

▲新遊村

▲馬入川あちん十文

▲やまご村

廿七丁

▲ひらたろ

▲きりつう此次五

廿三丁

▲けまの坂

▲大いそ

四丁

▲小いそ

▲あだたのさま

▲梅沢村

▲ふゆさだ乃をぬ

原

▲いところやう

▲押切坂より

▲いづれ橋足ゆり

▲さくらま

▲町ありかりたし

▲新宿

▲小田原

▲十万三千二百三十石

▲大久保加賀守

▲風まつり

▲ゆもと

▲よくもは

▲畑

▲老かたいら

▲箱根権現

▲別当堂村と院

▲社領二百石

▲下り

▲二百十五

▲きりたろ

さへ北河系

御園所 山門六の浪

えと糸

三ノ
大ノ

▲甲石坂

▲山申村

▲ふとこの平

▲さくらの村

▲はる系

▲三崎大明神

▲社外八百石

▲茶屋茶屋の

六百
半石

▲三志

三ノ

▲きせ川

▲新田町

五十
石

ぬまび

又及田

一ノ

甲

右ふかた松系

▲おけがの茶

とら

三ノ

▲一本松

▲植田とんてん

▲たりのみどり山

十ノ

▲日明神

▲白ツ屋柏系

▲うとこまの原

▲長カ三りの活也

ぬまび

▲九り余

▲大野とんてん

▲けふの山面なり

▲田の家

吉系

▲東市場



分り ぶと川

井丁 赤らん十五丈

▲榎の沢

たりのふたはけきり

▲東町

頁

かん原

▲新町

けふゆわの入口

ふんせくくぬと

川ありかりたし

廿九

ゆわ

▲新尾村

けふたり田子丸浦

右ふとふさり

▲くら沢

くぬをせほむ

風系より

▲西くら沢

百

さるごとうげ

抄さの川

たりの清見がさ

まきりづり

抄さの

をり きのふふ十三り

三丁

▲清見寺

さる二百ふ石

▲清見寺村

壱深川

たりの三條の松系

日明林見ゆる

▲急志り

抄さの

たりの清見がさ

三條の松系へち

赤ふの

久野ふ二り

二十

▲小吉田村
▲よこ田村
たり久野らる
右清ある

御城代

町の右云の上
海士浅る此社

▲ころく
▲阿比門

▲大あををん越

▲六十文
▲越村

▲まうこ

▲たつらを
たりつる此細屋

▲阿らま
▲ののヤ

上ノをり
十六坂

▲水守

左の方に田中の
城下あり

▲あまだ

▲せと川町
▲をの村

▲大井川
▲の

▲九十九文
▲供あに水尾

▲まよりてう

▲あや

▲小吉田村 ▲よこ田村 たり久野らる 右清ある	御城代	町の右云の上 海士浅る此社	▲ころく ▲阿比門	▲大あををん越	▲六十文 ▲越村	▲まうこ	▲たつらを たりつる此細屋	▲阿らま ▲ののヤ	上ノをり 十六坂	▲水守	左の方に田中の 城下あり	▲あまだ	▲せと川町 ▲をの村	▲大井川 ▲の	▲九十九文 ▲供あに水尾	▲まよりてう	▲あや
----------------------------------	-----	------------------	--------------	---------	-------------	------	------------------	--------------	-------------	-----	-----------------	------	---------------	------------	-----------------	--------	-----

九丁

くまや坂

きくざり

▲粟河村

さよけ申ふ

▲さよけ申ふ
無名社跡のまゝあり

ふち坂

▲ふち坂

ひけ川

▲ひけ川

大池村小橋乃

秋葉のり

▲秋葉のり

九里村

▲九里村

文へ里村より

▲文へ里村より

文へ里村より

九丁

さよけ申ふ

▲さよけ申ふ
無名社跡のまゝあり

ふち坂

▲ふち坂

ひけ川

▲ひけ川

大池村小橋乃

秋葉のり

▲秋葉のり

九里村

▲九里村

文へ里村より

▲文へ里村より

文へ里村より

ふくゆい

▲ふくゆい

木原村

石のむの社

▲石のむの社

見付基

▲見付基

えつげ

▲えつげ

大系院村

▲大系院村

よこすのり

▲よこすのり

池田の宿

▲池田の宿

天龍川

▲天龍川

八丁

▲八丁

文へ里村より

▲文へ里村より

文へ里村より

文へ里村より

▲うめんを

本坂ののりあり

之河のこま(出)

▲新所新田

石小秋美(心)色

▲三井町村

▲んま松

▲井丁 六万石并と河内守

七十九 ▲志の系村

▲まひ坂

今切の森新

赤うり切

▲赤坂 二百八十九文

▲阿らわ

▲七十九 七十九

▲あか足坂

▲七十九 七十九

七十九

▲あらすり

さるがたぐ

さうへ川

▲七十九 七十九

▲ぬた川

▲七十九 七十九

▲いむ色

▲七十九 七十九

▲新町

▲七十九 七十九

▲よした

七石石松平松原

右田橋百二十石

ハセ川(心)色

▲あわ

▲七十九 七十九

▲茶屋町

▲田舎

▲かけ

石坂のあり
うんたの十四り
宝蔵も一八り九丁

十三丁
十二丁

▲本の下茶屋

▲阿うさう

九丁
七丁

▲阿うさう茶屋村
▲同寺あり

▲ぬじ川

五丁
六丁

▲うんたをえ
▲大平村

三丁

▲かけのや

▲あうざん

▲六丁石
▲本由中務を備

三丁
卅丁

▲中をえのえし
▲長と二百八るを
▲えしはめ
▲うとふ村より
▲名古屋へ七り

百丁
六丁

▲大とぬ茶や
▲茶屋より
▲八丁橋へ終るを

廿丁
廿丁

▲らうふ
▲今がら
▲今川
▲さういさし

七丁
九丁

▲若白村

五丁
六丁

▲あひるこ
▲うさでら村
▲うんたん
▲つとて七村

三丁

三丁

所々へ夜入ル

△何つと此社

なごやへ町つき

の丁をへ入ル

さや島うのを

●ふらふ(セリ)

ふらふ(セリ)

ふらふ(セリ)

は後所にて待立

旧日多のりまづ

四丁

五丁

岩流り

右にぬごや乃

内城(んご)

六丁

まんを

川町の舟渡り

境がふふふ

七丁

くらま(みり)

神守

はふより右(ま)

ひつ(ま)ぬ(ま)

ま(ま)さ(ま)川(り)

ま(ま)の(り)ま(ま)三(り)

さや

り(ま)ら(ん)十(七)文

ら(り)十(九)文

くらま

十二カ石城(ま)

松平下総守

地(ま)け

ま(ま)で(ら)

東(ま)ん(ご)

旧日(ま)市

と(ま)り

八丁

九丁

十丁

十一丁

十二丁

十三丁

十四丁

十五丁

十六丁

十七丁

十八丁

十九丁

二十丁

二十一丁

二十二丁

二十三丁

二十四丁

二十五丁

二十六丁

二十七丁

二十八丁

二十九丁

三十丁

三十一丁

三十二丁

三十三丁

三十四丁

三十五丁

三十六丁

三十七丁

三十八丁

三十九丁

四十丁

四十一丁

四十二丁

四十三丁

四十四丁

四十五丁

四十六丁

四十七丁

四十八丁

四十九丁

五十丁

五十一丁

五十二丁

五十三丁

五十四丁

五十五丁

五十六丁

五十七丁

五十八丁

五十九丁

六十丁

六十一丁

六十二丁

六十三丁

六十四丁

六十五丁

六十六丁

六十七丁

六十八丁

六十九丁

七十丁

おひまけ

七十
九二
たうさんどう
礼の石記と

石茶屋

廿七丁
廿八
茶竹堂あり

元燈

廿七丁
廿八
のり下

かめ山

廿七丁
廿八
六万石城
石河日向

龍茶屋

廿七丁
廿八
廿と此入はよん
官及おひまけ

世と

廿七丁
廿八
所無た
おはたふ保加夫

新茶屋

廿七丁
廿八
のくきとてふ

坂の下

廿七丁
廿八
とさうの坂
権現の宮

とらげ茶屋

廿七丁
廿八
とらげ

よの木

廿七丁
廿八
よの木

いのみ

廿七丁
廿八
いのみ

ふが坂

廿七丁
廿八
ふが坂
田村川橋あり

日明林

廿七丁
廿八
日明林

お山

廿七丁
廿八
お山
石三交契あり

松の七

廿七丁
廿八
松の七

文燈

廿七丁
廿八
文燈

栗林村

廿七丁
廿八
栗林村

くまの口

三丁

二丁

二ヶ又ふ石
加茂修勢身

▲石場

▲泉村

よこた川より橋

▲田川

▲な川

九十

七十

六十

いーべ
ぢをう村とよ山

▲梅の庄村茶屋

▲同川村茶屋

くまの川より橋

くまの

右本番船別

△やぐら

い本右やがせ茶屋

のりをサヌ丁

五丁

六丁

△月の橋

△せた

大入り九十六号

小入り三十二号

△高井川

左入り石倉

右一筋のりが糸

▲せく 六二万石

本田政吉屋

義仲

▲石場

い本(中)せ茶屋

大津

礼場より右

三井小園

三

たろ本海石

△園の明神

△せとさる

△ちりし井

△せと丸の宮

▲おんまけ

たろふくまろ

▲よこ一本

▲奴茶屋

たろみまへの石

▲ひのおう作

△九折町

△けあけ

△東町

百十 ちん入んがらふ乃

まろふとらり

△栗田口

白川むし

▲京三糸道

たろの合 百折りお十又丁
人足ははに百十九又

▲まろふ いせ糸宮
乃法廿二里

三 十万石城主

リ 松平下総守

分 所屋川

▲松平村

▲とんど

名物中丸とまろ

▲旧日布

を 所仲又川わつ川乃

リ 糸屋に宿家あり

▲ごまうり

▲ひまが

名物うらま

▲おんまけ

所とくに糸系を

リニ

左の方石此の
さんごう
川ありうまむし
大あはれあやう

かんべ 一万石

ホリ壺

本田信隆守
と世一のらるる

志ふこ

ホリ壺

けふより紀元
△寺家村
今も人あきあり

うへの

まがせ村より
松さくたふる
少きへはるる

リ貳

根とられ草を

江戸橋とあり
系ういふなり

△壺丸
けふより町つと
津の入り

旧天王寺あり
茶のみ茶家あり

津 三千石

城主最重和泉守
町の中程み

リ貳

△國府の阿まご
今も人あき

けふ後宿あり
出口みふんま

茶のみ茶家あり
やとらぬ

▲茶屋

くも川

町中此川あり
橋、新屋、中宿あり

▲月と

右にあらら

▲六人茶屋

右にせもの

▲つりり

▲ふら

松坂

紀伊及山城

▲うい

▲んが坂村

▲くしだ

川あり

▲い

川あり

▲あうせう茶や

▲新茶屋

名物合おたご入

おむれ

出に文川あり

▲つこせ

右に下り

▲いせ

右に下り

▲天社

右に下り

▲い

右に下り

▲内宮

右に下り

▲天照皇

右に下り

八千束社
阿さま一と下百丁

△印宮

豊皇を神宮
八千束社あり

- いそぶ一入り
- ふくま一サテ
- 阿さま一三リ
- 京一三入り

● 呪礼ハ鬼ハふら

いせふ田より 四十里
ふぬらふと

三リ	ふ田
み十丁	やまご
をり	田丸
一りま	くら
一りま	大うせ
をり	くらがくら

をり	阿と
をり	とせ
をり	のぶら
をり	あを
をり	かまの
まり	とと
まり	こま
をり	まゆ
をり	なごま
をり	くら
をり	むませ
一りま	かみ
一りま	かみ
三リ	とと
三リ	とと
一り分	そね
をり	あだしま
をり	阿とま
をり	とと

まり 大さきう

まり さいり

二り ありま

かり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

をり ありま

山田 町ららし
まふ見物新まふ
町の出にぬ
宮川あり二渡一
やまご
町家なる宿屋
ゆびのまばり
田丸 一万石

城之紀元大井渡
町中の一とて
とくに新をせ
なるまふ
かのくまら
せんら
おるをたうは石
くのる
とふはまら
大うせ せり
とらが原 せり
あと せり
三せ
川を渡一
こせ坂あり
△湖の原を新
おしめて

三 大うせ せり
とらが原 せり
あと せり
三せ
川を渡一
こせ坂あり
△湖の原を新
おしめて

のぢり

とぶか坂

長者が埜の

阿そ

川の太あはを
たうへあをたあ

かーまの

川あう太あを
右へあう又川あ
毛のたうへあ

こま

川あう太あを

こま

川の太あを

まゆ

△大津村

△梅が谷村

坂の作の経路

此國さう

りうて川の海へ

ちりし志の村へ

川上うてさう

太あはにの年渡

△三ヶ村

るがしま

町家さう

こまの太あを

十六りあはれ

のさう

まを石坂

り武

り武

り武

り武

り武

り武

り武

△ふる里村
のこざり坂
△さうせ村
さうら坂

△さうら
さうら坂

△いませ

川が坂さし

△さうお村

△さうせ村

△中里村川原

△下里村

△さうせ村

△さうせ村
この山と
山の山に川あり
大木の村は木にて
まき道のさうせ

△さうせ村
さうせ村
作う茶屋あり
岩らうて難をあり

△さうせ村

三
町の出口

△中江川 小也

△美の根川 小也

△八鬼山 小也

△さうせ村
さうせ村
さうせ村
さうせ村

み

うけてとじりゆふ後
の人さうらうふと
まづけて親をらす子
もさうらうとふ人をも
ゆるがたふにあり
ゆるがたふにあり
ゆるがたふにあり
ゆるがたふにあり
ゆるがたふにあり

木のえ

町れ出にびらり
ありきも波るる
波さけあうらふら
ふさを改はるは
ゆきま推現二王石
鬼が城とらふ大岩
たのいさや
ふたりの岩
三義法師経道不

ありま

オリ武

十町むらうむら
たまんがう
たかざう
松ざらけとだて
とらう川 山也
一本村茶やめ
川あり小也
け二つの川もゆや
まうど子とらだ
とらふ

け不別して何し海あり
のどらうる日わうらう
波るく川うあま
とらふとらうらふとら
南海の地屋又他は臣
ふれさうり松煙河う足
美園の血入さうら

車を遠見し
とせんのもある所
けりうをあげて
城和家よりほげ
備へ連くとかく
う

道くら宝曆十二
年唐土の船は浦
より唐土の船は
台磯み達し 合
てまがたみを
本古福列みゆと

あれた

川あり波る
井田村

け入口に
たう此方

あつた

川あり
舟又
川あり
方新宮

新宮

新宮
天地社
本社

- △ふと
- △まやう
- △りん
- △ふ
- △あ
- △あ
- △あ

△つらつらおのり

△十一面観音

△阿彌如来

△聖師如来

△ふも観音

▲新宮 二万七千石

り 紀伊の家老

水神 滝渡り

町北出北下より

左 約 石 七千

▲神 立像 控現

堂 六万一千石

岩北より 七千石

け 木の 東 又

△阿比の宮

△志保の社

△ひろの村

またらふは

天にたらしむ

け 次 又 小 坂 又

▲三王 又

り 河 又 又

と 又 又

く 又 又

毎 又 又 社

▲この村

け 木の 石 又 又

く 又 又 又 又

松 又 又 又 又

石 又 又 又 又

と 又 又 又 又

大 又 又 又 又

ゆ 又 又 又 又

▲う 又

小 又 又 又

大 又 又 又

△この宮三社

△社分出て葉やう

△川せえ村

△いせさ村

△向ふに船ふり

△多野村

△二のせ村

△ならふ下る此系

西二三丁の宿家やう

ち中ふと宿やうと

本社一十八丁坂とろ

大門ありかくみ

日本書二天吳臨不

徳野之所控現

右八丁りて漸の

と一團一やうとと

系にんぞんありあり

ふふよりあてらと

らまんの如しけ不

さま書 親書書

色よりと下り坂より

西國以礼身一番

紀伊國熊野

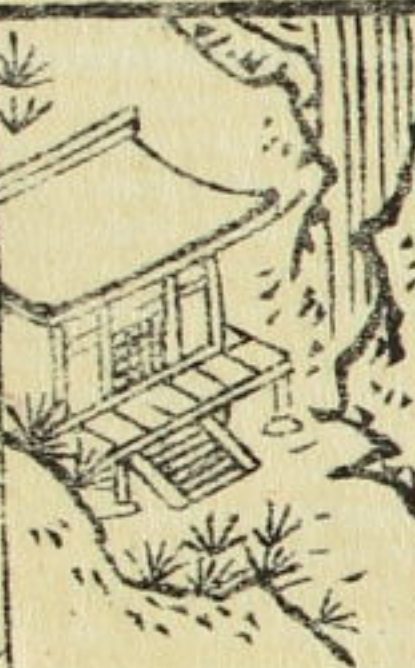
那智の山麓

新宮 内務省

新宮 二山

新宮 二山

新宮 二山



新宮 二山 新宮 二山 新宮 二山

新宮 二山 新宮 二山

新王出りぬる也
仁徳天皇の御宇
法皇法皇再建より
王の元壽母身ヤセ
子正有九奉る也
こふれいといふ事余

御詠分

ふざらくや者らつぬと
こらぬ世を知らぬま
ひぐれたとつせ
本堂ひつじさるの旁

△ふらふは本社

ことさとの事
は本社に礼所の
ふらの見親ま

△天地十二神の社

龍龍龍現
河津尾如素

善所如素
如玄輪親吉

第一王子

右のまも辰已向

不動明王

志やうゆ朱

文吉色菩薩

ふらんぶらり

とろく

善所如素

阿しく

△おんざん

大黒天

善所

波の初者

右のりしとら白

●ふらふよう

紀三尋古(世ハリ)

▲橋のふが茶屋

こづら

三 町中より大い
にふりまきし

三十丁身約て

▲茶屋あり

百十丁むうり約て

▲沢ぬれの茶屋

まりたふり約て

▲ふ中の茶や

ふざとえり坂

▲うけ川

村中より川あり

り あり大い新宮へ

九り八丁身約のり

川やあり

▲ふ宮

町中より
茶やあり

宿より御所へ約あり

町中より約あり

押するし川と云

門と 大くぞん

後約あり

弘法大師の地也

▲御本社

いざよこのる

本地ありと云

天地十二神の社

やんざん

びんやん

ふさう

ふやう

ふざん

りんざん

聖観音

聖観音

まうだるがらん
北森がらん

△十一面観音

△阿彌如来

是の年中社あり

集仰の集

ふり親言

△井の院地皇壇現

△井の院の天孫

△白河法皇

△泉式部 石塔

神系系々といふ

法隆寺 寺外宮地

この内、別名結縁

ぬいげめ和八年

ふとくく焼失して

今大破に母と

●本宮分サヌ丁

ゆの器(いたり)好

車(くるま) 小書(こが)あり

母(はは)より刺友車(さしともくるま)を納め

一(ひと)新坂(しんさか)ありて

川(かわ)傍(そば)に新石(しんいし)を

持(も)ち上(かみ)人の名(な)号(ごう)と

り(を)ま(し)らる(る)名(な)あり

△湯の器

町(まち)の入口(いりぐち)みこし(みこし)あり

川(かわ)の中(なか)に湯(ゆ)の器(が)り

不(ふ)あり好(よ)りて器(が)り

竹(たけ)の子(こ)ごが(が)りを介(ま)介(ま)

井(い)の葉(は)のふ(ふ)りあり

器(が)りのふ(ふ)りあり

みて湯(ゆ)器(が)りあり

を和(わ)して諸(しよ)人(にん)信(しん)を

けい海不く湯涌不
三のけいゆけけの
如く甚奇なり

△湯家、こヶ所

中いどめ湯

そんれきふべー

西い男子湯

東い女子湯

ゆせんそんよこえり

善所堂 二重の境

湯のた自然のたま

開帳 幸ふ任と

ゆの器

二 赤木坂

ゆり乃茶や

ゆり

岩と坂どうげぬ

宮の茶や阿り

坂りり七茶やあり

めうと坂

坂二つありに号

つこの坂茶やあり

のまろ

ひでらう橋

御甲のまろ

ちうら

出口と柏碑

茶やあり

大坂どうげ

よりぬ茶やあり

碑中をすり

十丈碑

りりて十丈村

まのまら

茶村入口

り川あり

志を

茶や二ヶ家あり
と舟と碇茶やめ
まうく見ゆたふ
ふふふふらうを
阿波岩本見ゆ
ワウーリ本坂中に
茶やありり村

中を

中まこと出川あり
下まこと川あり
とやう村
中丸村宮あり
下丸村

り武

たるべ二方又石
紀州安原宮カ
長所出てこぬり
年々まるとま岩あり
とや村
とく村

り武

此北出口に川あり
とるべ作江小書あり
かたから作りりて
▲東のまら村
名前の松の西岩代
村にあり
五の本坂

り本

かま明神の宮あり
とるべ
夏坂ふとら此落あり
権現の社あり
いふま
▲とや村
▲のま村

り三

さくやれのん

十二づら

原履つら

▲さくや村

さぬけ折

ふたつ川舟

阿まご川舟

ぶがう村

いさやなご

ゆらぎとゆらぎ

あゆみ

▲小松系

所中よりたうら

へまの石

△石

二重

堂の系

あつむ

女此

委

あて

橋

さ

け

ゆ

を

▲小松系

三

リ

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

川

▲中村
たうらうと云ふ所

ゆあさ

町の入口川あり
あうと作ありて
▲うー川村
ひとが作茶やあり
長村がうぬれ塔あり
▲いとが村

雲雀正得生

▲雲雀正得生あり

本為河

本為河流絶れ来
屋徳を子れ此他あり
中村娘十三女の御新

八不中ねらめ石正の地
刑部善付ありありし
後又出家し得生と
云てち号とあり
定也 徳達 けんらん

又見西村と人給
のこしたまふ

宮系入口川あり
あ田川と云

宮原

いと色紀伊園みん
りづるあり

半可

かぶら坂
とり又又丁坂中ふ
弘法大所法法あり
て器ありありと
地ををり付あり
色向の松
味り宿六七あり
りり又又丁
地ををり大所の地

かも

かもがきふあり
ふらありありけ

らるる寺あり
久さんの石塔あり

此所の芝は不絶なり
西にありと云ふあり
和名はら玉津の
紀三井寺と云ふ城
何と云ふ眼に
将監氏も寺あり
と云ふ松日石といふ
大岩あり坂中に
谷小治ありのさうり松
ふらまあり

△夏代権現社

そるる捕の下に

龜井次帝 石塔あり
鏡本之帝

東の方に中さけあり
子孫もあまう

寺

▲ひうさ

▲ららゑ

寺 け不紀列振あり

▲うち系

らるるはけあり

紀三井寺

門前宿家あり

二番紀伊國海士郡

紀三井寺金剛堂寺



ま言

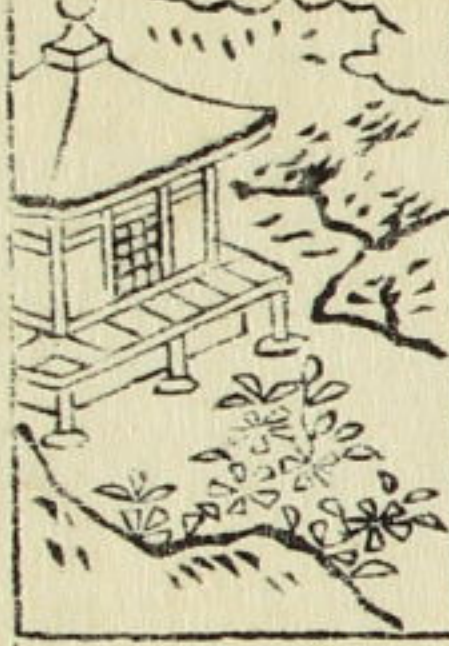
寺七新

寺石

寺南向

九石

堂敷あり



十一番紀伊のたけ三三

用山蔵と人の化

元仁天皇御新
宝龜元年天皇御元
聖武天皇二十二年に
ありては、
紀元二千九百九十二年
ありては、
ありては、

△いせせふ社
毎々天の社
そとより姫の社
社一の場か見えん
いせせふ社
ありては、

△玉つーま
そとより姫の社
社一の場か見えん
いせせふ社
ありては、

△いせせふ社
ありては、

権現宮は別あり
知りふみ百石

▲東照権現宮
此宮は元月十七日
ありては、

▲和歌天満宮
ありては、

▲和歌北里町家
ありては、

▲こがま一八リ
ありては、

▲いせせふ社
ありては、

▲いせせふ社
ありては、

紀伊屋店蔵中
加田泰徳明神一
三ツ尾

一 本町出く
▲かけはらり
宿屋町

二 八軒家
たりにあはる
程ぶらぶら
ゆり村
とけ村

三 川崎
い里で

新町
宿川の幕屋に
あはる村
次々に大門口

如急編親吉之新川
りけぬけ十八丁
▲ころま

町中又も舟
またのとまうれる

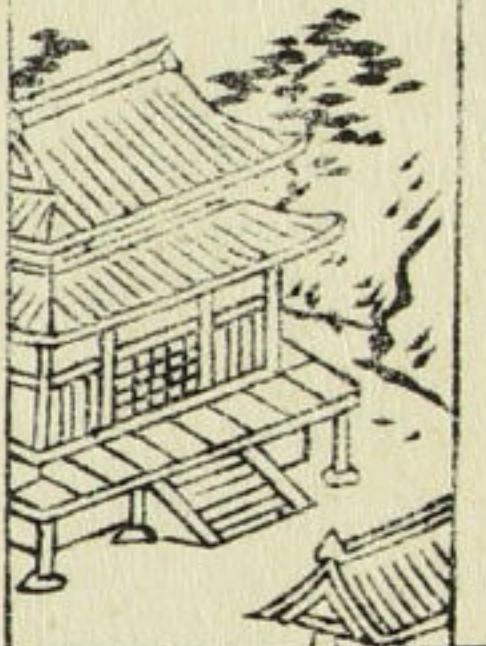
▲大門口の内たれ方
▲池邊坊

親世喜出親の所
▲音屋堂
村親堂
徳堂

三番紀伊國那波郡
補陀港
ふたつ

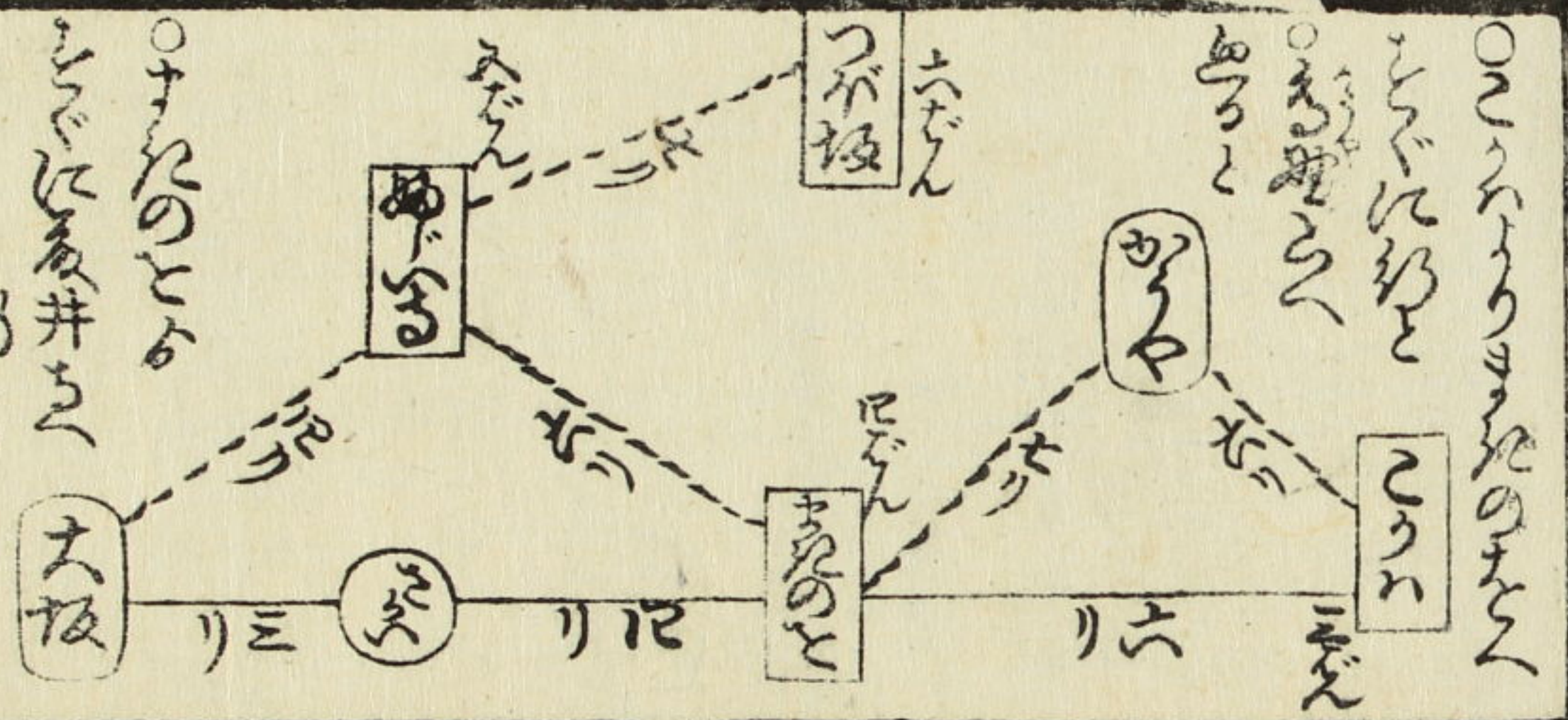
子子子
出親を男の作

親世喜
出親を男の作



天台
古井一軒
古井
百三十五
古井
四角

宝徳元年 釈主
大徳此孔子古
天の元身と云十二身
そののの由もいさふあり
しにんじりもふうた
新川をわくけらうふ
たのりたあや
ふも堂 一六角堂
徳主丹生明神
▲新川町中十七座
てたう一も社まらこの
をまうも過たり
名物も作る中記板え



○すたのとみ
とくに養井と
○さふ大坂へはるこ
新川か
とくる

ころうい
△うやと
△光休村

△光休村
川あり

石り(凡十八
世川

ひむらごん
今なるは

△宮の茶

ひろい
たいら

△光休村
たいら
△宮の茶

△宮の茶

粉川より
えりむら

所中まをりりてた
り

△井田村
△光休村より

り
とくすたのとる
右りやふら
川ありま

り
板ありとろ廿八丁
作小茶家あり

り
△光休村
△光休村

り
△光休村
△光休村

り
△光休村
△光休村

り
△光休村
△光休村

り
△光休村
△光休村

り
△光休村
△光休村

り
△光休村
△光休村

石の板の石

けいこうけい石

押つけ石

かとういし

かとういし

中馬所

はあより左より女人堂

終て女中のまうをく

大門北口を終ては

△天の龍山金剛堂

弘法大師のいしを所

法華平二万石

徳意のゆきま

あらしを死を

△大門

南に二十万石ありむら

北の境に二十万石

も境にあり

大門より二丁むらり

たりの方り

△中門

中門より入てあり不

阿うだんを命うと云

△金堂

こんたんのまゆめ

△六角堂

むしこんたんに一切経

△三社明神

丹生も明神も

△西塔

こんがうかいの天日如来

△新法堂

そん法堂をまう

△孔雀堂

くまをくまう

△摩耶堂

去りての親善

△所新堂

弘法大師の像あり

三柱の松あり

△灌頂堂

あぶのまんたら

△大塔

たごうかい大日如来

平井法皇の自筆の

文書あり

△極祇塔

六日よらい

△新学堂

あいでん明王

△倉堂

大上の阿もごり来

△三昧堂 大日如来

△东塔 七宝如来

△真公

行人方此取也

东照宮法神廟あり

△書教

学問方の取たり

あんでんきあり

△収りまむし

教院のまむし

ふごうのま

和合院うらむし

ふごうのま

遍照光院

こけらふごうのま

うや登

町うや石公伝不

清浄公院

伏日大伴乃登

かー約て大うー五
是今古徳町

○高柳山

大坂へ十六り

斗死のさへ七り

まてりさへ

くまの女文へ十八り

粉川へ六り

つう山へ十試り

若山へ大坂へ

十六り

順礼指南車巻上終

指南車 中巻

△高柳山

大川より星と地丁はるたん
おまうの事系上車は妻
くまはは是か抄くの院

△大んー 出づる

けるより町家
乃此處より石塔也
代々の天子お軍家
毎々大名名取う名墨
の人々石塔の塔記を

△吾我十弁曰入弁

△あつりり くらん

△玉川の細さごと也

△多田渡仲云又輪石

△志や柳

△申れり

△今更にけ花橋

△法然上人自證の石塔小堂の因

△左後次信日忠信

△大納言友石

△みまんのたいご二りん

△田方よりかきたり六

△不わのふ一敷此大石

△本阿彌七本石

△本合堂

△ごま堂

△さきう明王天所の他

△求圓持堂

△本天よりかきたり

△御供所

△毎也天よりかきたり

△御廟乃橋

板敷世七板世七より
九字を一一つこの
うらにあり

△燈籠新堂

△万燈のち燈籠あり

△骨堂 △経堂

△奥院御座所

兼和二年二月廿一日

弘法大師御入定の本

かり今年より元来

千七百四十七年より

下白の町中やと

千七百四十七年より

△大徳院

△東照宮法外庭

△別法者坊あり

△内北不動堂

二重の塔

△女人堂

●高野山より向方など

も又十丁の石人堂ありし

△大徳らくろく味(初夜

のよそはほどくが堂あり

十丁に建てるい下を(堂)

△まんじい大徳より約

大徳を十二り

△なる坂(大門)約

このいちまの浦より

△紙谷の女人堂(約

またのそ

系大坂屋あり

△女人堂 系大坂の地

系大坂の地あり

△又十丁の石人堂は約り坂

△又十丁の石人堂

△ふとら坂

けろく下る斗也

坂(約)

紙谷

△紙谷 町北出口より右に

系大坂屋あり

またのそくは約り

△志いせ

るしの本さうげ

▲くど山

けろく下る阿波

かんさよの地

△慈光院村

弘法大師の母云

のたがら不動堂

二重井堂あり

町中より右へ紀の河

亦渡しあり

安永六百身より

安永の教を感得の

河門実道

▲大畑村

あれよりふら

▲竹のと村

▲大まこ



り式

紀伊和泉河内

國さかい所あり

▲まきのと

門茶に茶屋あり

宿も寺にかき也

旧番和泉國泉郡

まきのとせんせうく

樵尾山龍福寺



天台宗

古七十軒

堂南向

八間七間

十一面

観世音



久き紀伊と人あり

法海と人の化

弘法大師と人の化

五二十九身あり

源公衡やのむら松原

王けねがすたのか京

こまぞいさあり

○ふらわさへ

大坂まろ
十三リ

とどろ
七リ

▲まのの
又十丁

▲まのの
三リ

▲よこふ

▲あまの

▲ふ田

▲天世ふ

▲さうい

▲金割る

▲大坂

▲のふさ

▲ふらの

▲えんた林

▲又ふらわさへ

●田んまきのとふ

大坂へゆきみん

後井さへ行く

▲まのれと
又十丁

▲よこふ
ふ田へ
三リ

▲村中ふ川あり

▲さやぎ

▲いけ九川あり

▲とせうとらとせうあり

▲ふ田
さういへ
三リ

▲大なる村日明神

▲らんせん村

▲さうい
大坂へ
三リ

▲け不橋河泉の園境

▲ふらふら
南小女田町

▲大なる村大明神

▲天神の社

▲めぐり園寺
名本れとふあり

佐伯の系



△志保とどろ

を介名不詳

所出て川ありやまと
むしかる

△市んりう町

名本なるはやのね

△佐伯は神明神

一 佐勢古神宮

二 宇佐古神宮

三 佐伯大明神

四 神功皇后

社於二子百石余

旧宮より山の門へ出て

△神宮寺

大海神又大カ諸堂後

△すまより 新敷

茶屋五

△天下茶屋村
右又天王寺の塔の
△今宮村
此不火坂此町乃入口
又か町宿家あり

△大坂

糸不足物不長し
△町奉行 御城
△天神社 △天満宮
△小石ま △河原社
△小南の御堂
△ごまれ社 △新町
△阿まご池 △石枕塚
△あがまら
△あま津 △いくたま
△津あ △あまらま

△荒陵△田△天王寺
聖徳太子のいさ七堂
からん仏法堂初乃所
御朱平子六百石
△西門み石此も居る
かくい小姓乃屋乃等
△念仏堂 △又堂
△金堂 △徳堂
△龜井水 △おき堂
南門へ出てふたおさ、
終り

△大坂

△てんまうじ
△こがり口
△くまの
ひらの

武

町家多し

△大あり

△川文へ

△大和川あり

△小山村

又番河内丹南郡
浮婁郡の後井寺



子海観音又尺寸
松文社首此地あり
け此所の名残よいて
世くかまがの地といふ

其言宗

寺あり石

堂有白

又間

四面

聖武帝ゆまんと
阿加う親王は再興
子に十八年あり

まゝのりたのそこのれ
後井もたのそこのれ
むくまのそこのれ

娘らお寺

門兼み宿屋あり

△こんた

八まん宮大社あり

石明寺
玉手山

古市

川ありるいかり

堤を右へ移たりの
山を右へ移たりの

△つねの八まん宮
△つうやうトキ
源家三神殿
子子堂 三子堂

とら子

八 け不登城をより
所廟あり也

丁 寺堂 志公堂
阿彌堂

を子十六女は教堂
二重此塔

石どんよりて
二十又此は教堂

五六人のうら
三骨一廟の岩完る

山田

△山田 たんま

け町よりいまやらの
ふり町に里十丁あり
とらて石地盤あり
右の竹の用をるは
らざういこやぶ
作れままへ右に方
いまやあり

△山田 とうげりり
近堂ありたうへり

石光寺仲おのめの
内教まんたら此系
うけさう。深井あり

△高麻寺

よこ門より入る母りて
門り宿家あり

中堂 金堂

△本堂よりく蒼蔭
中お姫廿九歳の御影
をとりてたすへざらを
押りたすふ不なり
△紫雲庵

出てふのののころ也

△塔北堂ニヶ所あり

△奥北院ニヶ所あり

△如來堂の地也

△如來堂上人の地也

△如來堂上人の地也

△如來堂上人の地也

△如來堂上人の地也

△如來堂上人の地也

△如來堂上人の地也

△如來堂上人の地也

新庄 町家

△新庄

△新庄

△新庄

御所 町家

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

△御所

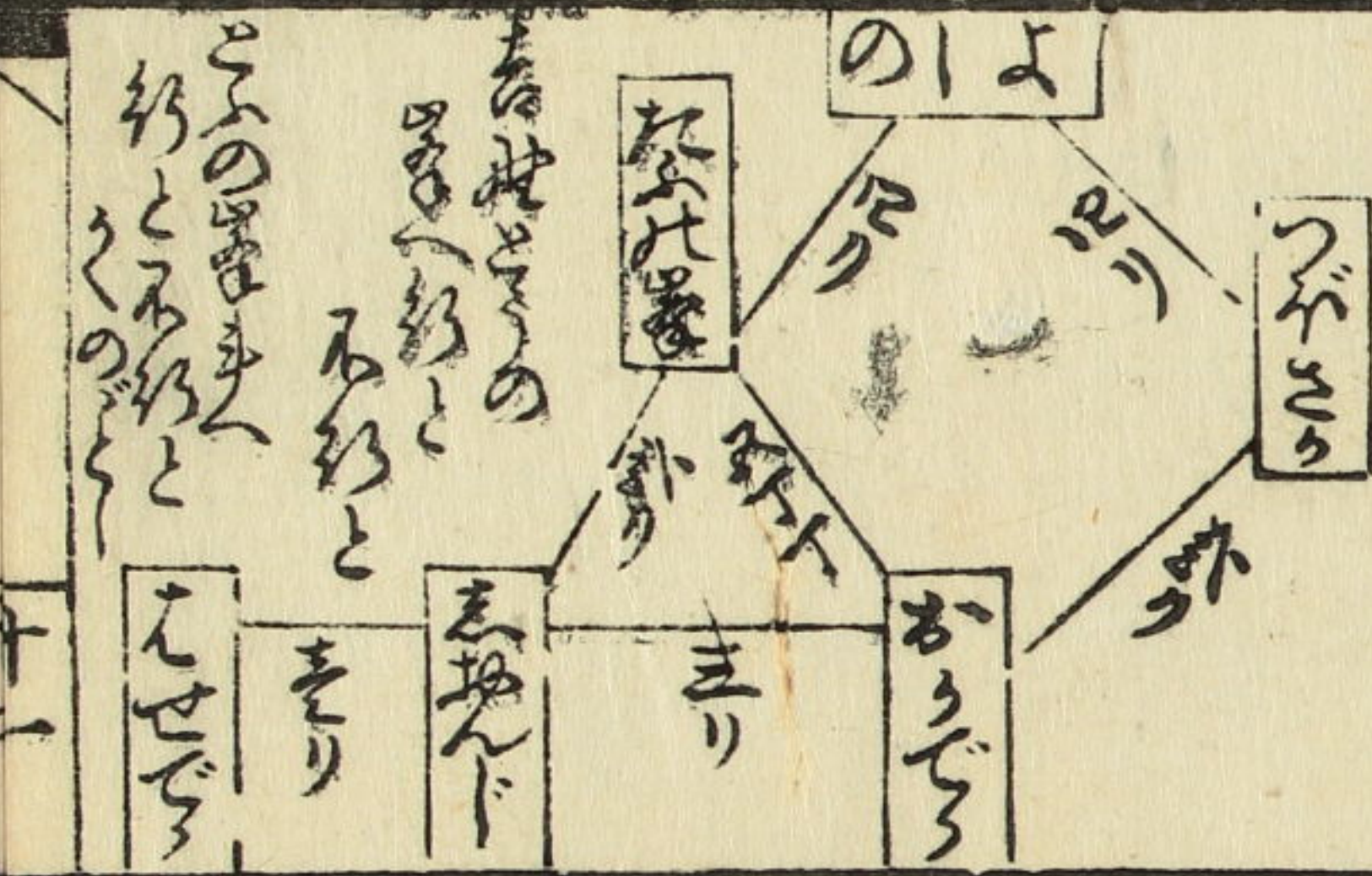
城を松平公が守
 城を公の上におり
 よしののちどどに
 けりる一筋人けり
 物物けりてより

一番大和名市郡
 壺坂山南法苑寺



美言る
 十二朝
 古処三百
 石堂
 八る二面
 九つと白
 乃紀と人妻よりけり
 出で十一面とせん
 報恩と命とけり
 七十九年み成

三層の塔あり
 妙の院ハ又六丁東
 けりさん自然乃
 石佛み百らんあり
 岩がたてあそとて
 つがさうけ屋のへさごも
 ちやうしとからん



○おちどろ(おとどろ)の
うーのこのぞとれん
つがさうよりより
さよのおちどろおちどろと
結てはしおちどろおちどろ

○よりーのる

つがさう

三 けるにたはつばり
りまら味也たりおちどろ

△まさ

おちどろ 茶所堂

△ひそち

あひせん堂あり

坂中まじりーれ川

おちどろとて

いん

けしよりうみれどろ

おちどろ十丁

おちどろの味あひせん堂と
百丁のるまはつばり

△一、おちどろ

△関家とて茶所堂

よりーの、おちどろ

けしよりうみれ方

日本が花ひとめ子

かとまわりとらりおちどろ

見るよりておちどろと

足下おちどろおちどろと

る方すてもまきとて

おちどろつらおちどろと

おちどろつらおちどろと

△か、糸のどろか

けしよりうみれとて

結とらり

△おちどろ全茶所堂

赤米平石

寺中百部余

大門をふむとせなり

△本堂の南向の

丈六の菩薩王権現

三尊ありまこと

△実城寺

後醍醐天皇村上の

二帝皇居の石

△右の院

後醍醐天皇

義経天皇ははさへ

素々しき

△勝子明神

△子守明神

△金精明神

けぬけの塔

右何道も大社也を介

系不名をふま

△奥の院阿仁寺

西行阿んをさし

たふりる

△大塚之七り

△よりの

△たんど村

△つぐみ

うの川舟渡り

△上市町家

△らま

ゆきこ坂どうげに

△堂あり

△たさね

△ふの庄

倭山多武家

知新三子石も田十軒
本社大志よくん
かましり云

△十二重此塔の下ハ
後身云乃由造骨之
諸堂多く茶や白し

●あつち一ツの坂十丁

△あつちがむら此塚あり
△西に村

あつちら門前宿あり

七番大和町市郡

東光山龍蓋寺

あつちいんらんおん
弘法大師乃由也



生るん
古一軒
ちん



二十石
堂南向
入り口西

天智天皇はあつち
子百十八年あつち

けさえれつ色あつちら乃
産此とけさるあつちの
ひりなるらん

●法がさうかよりの
おどろくはあつち
人けあつちたふり
こひあつちてより
△あつちあつちら乃
坂中より右へをるる

志保んどろふふを
出合なり

おらでらふふを
とぐらニリ

おらでら

△河さうの里

日明村那の地

△辰原さ

△あぶ山万能さ

文殊堂あり

いさやふ茶茶あり

△橋井

町いろうし右に

藤のふんあり

△志保んど

とせしうらふ

にいけふりあり

△くろがさ

とせし町入り口

大どろあり

大門より二丁半の

くまいろく内を

二重井さうあり

本堂の茶さうあり

八番大和城上郡

豊山長谷さ



志保朝

あふみ林

知り

二百石

寺南白

七五石



十一面観音二丈八尺
おらでらの地ふさ

柳井 大和明神

丹波帯 肉公承之

石上 左の社

▲寺

地蔵堂二所あり
入口と町中より

るら 町へ入って

名真寺 又重乃塔

ありたいてんと

さるさる乃池

け池の上の南大門の如

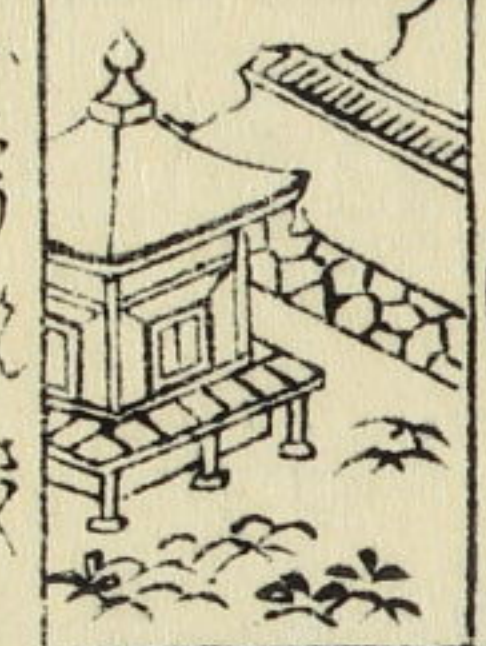
たをこれ餘あり不

東門より入

▲真福寺



堂六角
宝形作り
寛政九年
乙十一月
再達
入仏堂



制之けいたい日丁田方

九番奈以南者堂

不空罽索三回八幡身

觀世音弘紀旧身

及不空を嗣て建立

九百六十八身あり

表の目よりあるんぞに
く中にて二尊のふふ
んりうすごと

△中金堂 三々う如来
△東金堂 三々如来
△西金堂 三々如来

△小糸堂 ところく

△又堂 塔大日如來

△三堂 諸堂悉く焼失して

今更らふのこまら

△一系院 内門を

△大系院 内門を

知新 又面石

小の門へ出て右へ行

△去日 社明神

一級 ひととふ

△若宮 社

△八まん宮

△東大寺

寺殿二五二石

大仏殿 東西五十石

内めんどう 長さ一丈六尺

目のなぐさ 二尺九寸

口入 二尺七寸 身八尺五寸

鐘の長さ 一丈二尺 守

口のまくり 九尺 式す

何りさ 八寸

△三月堂

△三月堂 親世書

毎季二月節日
二七日の法経
本王出る

かけづらりの書より

いこふん書

けりよりある門書

てんぶ町書

らん少やち日坂

るら坂

るら坂

▲わらわら

▲西は系書

▲とやうたい

▲とらん

▲奥福あかん

▲海鏡

▲わらけ

▲とらり天祥

▲西大寺

▲秋志のち

▲二条村

▲だつり

▲てうせり

▲たせ村

▲わらわの

▲本津川

▲ちん村

▲玉

▲玉

るらよりおれ通
やちんもま
うらへ

●うらへ

やちん

本津より

又

二	一	三	三	一
うら	なご	ひと	きづ	ら
うら	なご	ひと	きづ	ら
うら	なご	ひと	きづ	ら

刺 ぬら
名物 布すこ

刺 本津
川あり 舟渡こころ
やまこり 舟あり

刺 玉あ
ひらと
名物 村ふごはれ
くらたやとどの
たうにやぶのまこ

刺 長池
くせ村
おろくまんとん
おろくまんとん
おろくまんとん

刺 今治
名物 蕨 十丁
平名院
くらんやう入

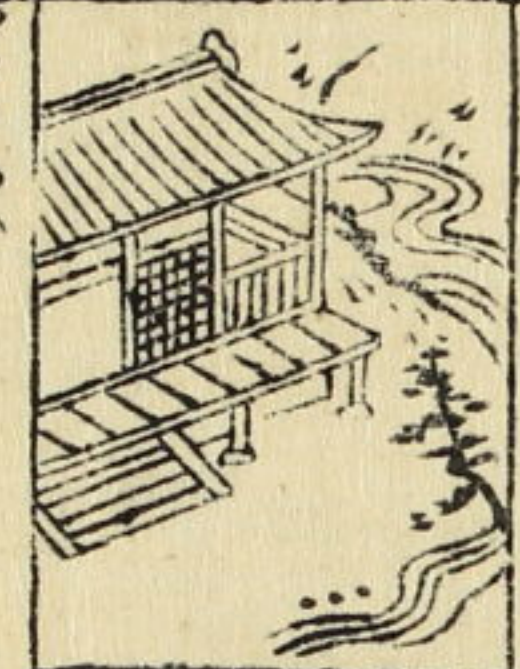
本堂阿まめ
おろくまんとん
おろくまんとん
おろくまんとん

此の山は... 先皇... 門出... 府の... 空... 今... ありて...

△奥に...
△奥に...

右へ... 十番山城... 妙皇... 寺...

十番山城... 妙皇... 寺...



天... 今... あり...

九百九十八... 明... 乃... 達...

上の... 万福... 開山... あり... あり... あり...

つらぶんど村

とんせん堂あり

△下のたの村

△磯礮寺

本堂 又堂は塔

知新田の石の下の石

三空院の坊あり

うら門のけぬけ

ひらうりより坂二十丁

甚難本也及いす草屋

白し休よりかちりて方に

△善龍権現の

とんせんあり

△北所親善堂の坊あり

焼灸ゆへ今より紅葉所

をみよりままと

十一番同

深雪の上磯礮寺



とんせん

も七十軒

寺あり

九の里あり

今此寺あり

善龍権現



とんせん堂あり

聖堂傍の坊あり

開ふと紙の春徳

子甲申八年より

とんせん堂あり

とんせん堂あり

たのりあり

△又大カ寺

△如意輪観音堂

△理源大師堂

下り坂のるまあり

○岩間寺七十丁

△このだいでより

廿二丁ありて

△西かさところ村

宿を新あり

西宮がけのあり

小河くくして廿丁

むよりよりて碑あり

△東宮さむ廿丁あり

くぶりて

△東宮さむ村より

八丁よりて宿あり

門あり宿一軒あり

本堂のあり女人堂あり

素よりあり

土番近の勢田郡

岩間山正法寺

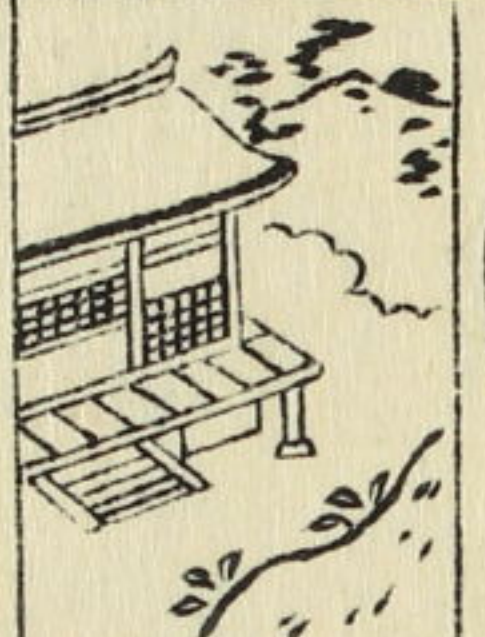


如法

北及石

寺南向

二馬



△石山寺人又十丁

△いまよりより入丁の

ありて碑あり

りり坂のあり

竹生寺 長命寺

石いざん かつら

△石山寺人又十丁
いまよりより入丁の
ありて碑あり
りり坂のあり
竹生寺 長命寺
石いざん かつら

大津 びのの法城
之と云ふ名にて遊あ
の風流りらん所乃
うともそとくたり

井又下りり
△お下村 宿あり
井下りり 細石乃

△石山 井藤江宿あり
井下りり 井下りり
宿家あり

△大門より 終て
石山より 終て

十二番 同

石光山 石山寺

△六如 菩提親世書
聖武 天皇の御宇



ちんげん
寺八軒
古れ
八百石
書物
八百石

石山 傍にいさより
石山 八百石あり

△石山 郷の石筋を
源氏物よりと云ふ
二名をの境

石山 傍にいさより
石山 八百石あり

●三井寺 一ノリ

△石山 寺 熱門地

奥の流ら女一人とんせいの
なまら後をれつりご
鬼子母神の宮あり

●今ごぬのくこり

とぐらるこ母も舞を
右の約とこせだごも
よこ本 ござうも
口の宮 奴 茶や
たうにらるる若ら乃
立石あり今々ぬれら
本をのししろへあり
今々ぬの 二十三年を
大づの さいら
とよみ ざかん
智慧院
こ条をうへもく宿の

●二母さる

志いん まつり
くらま

▲二母さる 東坂中い

又十丁
△志が けらき記
日明神 日松
西坂中

▲東坂中 志いん

まのく
まり

△五王権現七社

是かふら女一人とんせいの

▲ひんせい くらま

こり
天宮宗惣中さるまう
四社多し

坊舎百廿七軒

ゆ来平みふ石

▲寺塔とまあり

中堂 善所ゆ来
後堂 大日ゆ来

戒壇堂 志やゆ来

修教寺師匠廟所

△西塔と云ふ

志々堂

熱湯樓

えんどうふ

いんどうふ

△横川と云ふ

と云ふ

親善堂

えんどうふ

いんどうふ

△中世と云ふ

△おん

おん

おん

△おん

△おん

いんどうふ

△おん

二王門より八丁

△おん

おん

二王門

多宝堂

宝物

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

△上カミ加茂明作

多う不フ社家多う

△之ノ多タが池

△下シモ加茂明作

△上カミ加茂乃狂

△御内ミチ重

△十九歳ニのうウ童

け不フ一ヒト多タる所トコロなり

と多タ多タ色イロなりなり

岩イワ家イヘなり

下シモ加茂方カタ系ケイへヘせ

赤アカ山ヤマの系ケイ而ニはハどの

多タ川カハ比ヒ色イロなり

三サン系ケイ通トウへヘせ

今イマまマのノ方カタ明アキラなり

心ココロ裏ウラをシけんケン後ノチも

是コノ日ヒのノ判ハ限リなり

よるヨルをヲ

系ケイ部ブ系ケイ所ショなりナリなり

一 四ヨウ系ケイ一イチ九ク丁テイ

下シモ内ウチ一イチ十ジュウ丁テイ

上カミ内ウチ一イチ六ロク丁テイ

御ミ内ウチ重シゲ一イチ三サン丁テイ

おオ内ウチ一イチ八ハチ丁テイ

二ニ系ケイ本ホン林リン一イチ三サン丁テイ

御ミ城シロ一イチ三サン丁テイ

御ミ林リン一イチ八ハチ丁テイ

六ロク角カク一イチ八ハチ丁テイ

四ヨウ系ケイ本ホン内ウチ一イチ三サン丁テイ

天テン使シ一イチ八ハチ丁テイ

又マタ系ケイ本ホン林リン一イチ八ハチ丁テイ

系ケイ本ホン林リン一イチ三サン丁テイ

系ケイ本ホン林リン一イチ八ハチ丁テイ

七シチ系ケイ本ホン林リン一イチ三サン丁テイ

竹田	二	波	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
竹田	二	波	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
竹田	二	波	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
竹田	二	波	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十

東	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
東	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
東	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
東	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十

十六番山城系
今徳地親者



諸宗
善堂
堂七
高
見
の内也

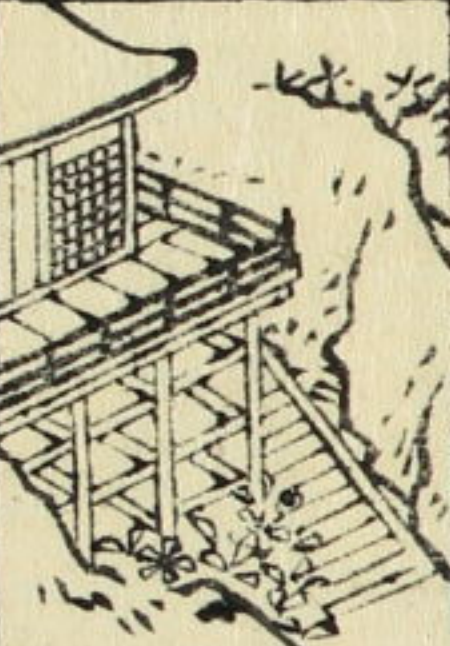
十一面之ん言一尺八寸
弘法大師の作なり
白河院の中
八百九十七年

むじ下ろれたるものなり
まゝのれらのらう
あつたなり

●きよらるる二十丁

△泉涌る
△二十二年堂
△大ざらでん
小松岩 西大岩

十六番
善好山清あり



法相宗
善堂
善堂
善堂
善堂
善堂
善堂

子親善法け八尺
室龜九年寺より
親と坂下田村磨
天の元寺也
子三年

松風やまねのたさの
まはあて緒ふらぬ
とほしめらん

かきれきりぐらふ
妙の流るるより

大坂をゆく
地を推取まねのたを
備きまう不詳

大門口より系れ町をま
るる

清も坂八町り町内
とど右の方に

十七番

六波羅宮の裏の院

天曆八年空也上人
まへ八百二十一年



まごん
もごね
童東向
又る
北面



十二面観音のたけきま

ゆりくも入りのつら
よし何じいんらまふ
まある身あるま

●六くたうへ十六丁

△たんふん
△やとわか

△まごん

門前をまね町に東通は
河原の神社のじらふ
らまねいらいら

△花頂の智慧院

海老原のふみなり
三ノ門をくく門をきり
右へこまへ出たところ
らへてたうの方

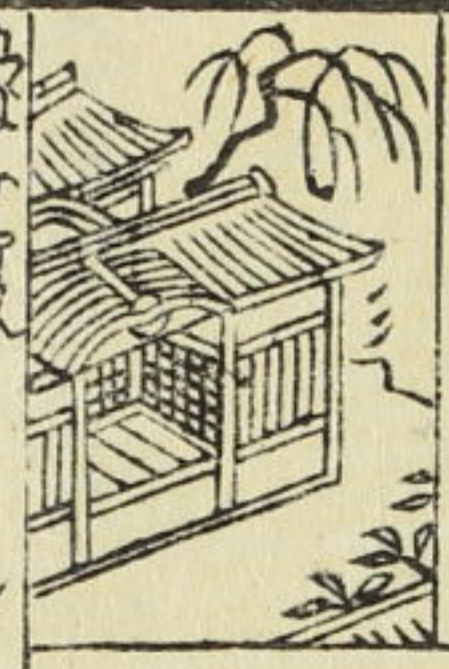
△板を敷く

つづいてまへに石塔
のこまの物

西の門をきりうり

十八番

六角堂頂法



如き殿くまんかん

ちんちんの
海うらと
アみんま
言さふお
きふく
地ふ

聖徳太子の舟りかき
ふ七十八身ふかん

我母りへらとゆはら
ふのあかたきまもこと
いのりあきり

●のりき一十き丁
系の町見物多し
一条通も町うて

十九番

草堂紅願



天衣宗
とんが石
さ一軒
ききむ
又る
はる

ふ子親者たけ八尺

好のまほすり

△本社大権現

地蔵がしら

眠立 ふどろ明王
びとや門天

△奥院 おのゐん 古布坊

△向と むかひ 古布坊

△石 いし どん中継より

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ ニリキ

△おろ おろ し おろ 越る

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

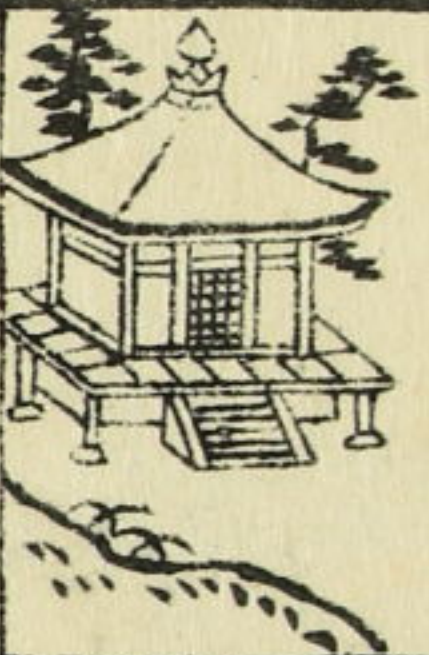
△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら

△おろ おろ なるうらむら



天台宗
寺一軒



南白
八丁
旧田

慶和二年宮内省
建立八百廿年

あるとせむとせむ
十丁

けりし人
門へ出
りし門へ出

● 阿ふらう
とれん

けりし甚
山坂川多く宿
不自出

▲ ありし
出くえれ
小ら此

次ふ池あり
次ふ家三
かして大

又ふ此右
西天に
としあり

知田村 宿あり
明神あり
川に宿三
石より

谷河いれ坂あり

作りて

親者書

といふまじり斗約

とぶ谷村者三約あり

とらげありあまー

けりるまー

とらげありあまー

十丁をうりてたる

をたうへり

▲この畑より一畧一

宿三に約あり

是ふ

谷河いれ坂あり

廿丁斗約とら

年ありあまー

よしこののるなりあり
ふれまはゆへ又六丁
りり坂あり也

廿番山城乙訓郡

西山若原



天竺宗
ちびら
ち七約
書
あま七る

ふり親書たけ八人
仁弘と人の地長久武
年源義と人同基
七百四十一
神谷もとら山治に
あはれとらばし
くらくあざら

佐新堂 六角堂

二重の塔

大門より八丁より宿あり

●このじちちへはり

やうくくハハをりま

のまこり

よし家より

しごり

たうに糸の所

まゆり

あと

を 光明寺ハ浄土宗

リの本ふり

本堂 志やう堂

赤光寺師火堂の

終あり

ふざれたのがい

茶よりハハこへ乃

まうとるあり

ふざれた

を 町の入口より右の

ま ぶとふ十又丁より

たくらび

りりて町の出口ふ

△八さんの社

▲さくらわ村

▲くらら村

▲阿ま村

次ふたうはもつたの

城よりなるを松

あり右ののり

ふんちん橋名本

ことと村縁田塚

と宮天さん宮

ひの川

阿々川

川あり大いなる

川あり大いなる
りたうれ方
そんたいざらととも

そらじまの東の門

そらじまの家

●より一帯ふんふんこころ

△阿とのまのぬさうりまり

むらうりお天祥れりり

そらじまのちうりり

ふがぬさうりり

小河の流るる南へ下り

てよと川あり

△そらじまの流るる

堤より流るる

そらじまの流るる

▲茶屋あり門あり

門あり門あり

をぬるる

△本地堂

是より坂あり

△本社正八幡宮

儲者多し所あり

正面へ下りてやまの

西より南へ下りたり

▲やまのふもとに

三ツ

けしん山西へ下り

坂中へ下りて石あり

▲石あり

けしん山西へ下り

とゆるる

▲さくらか

かざりり けしん山

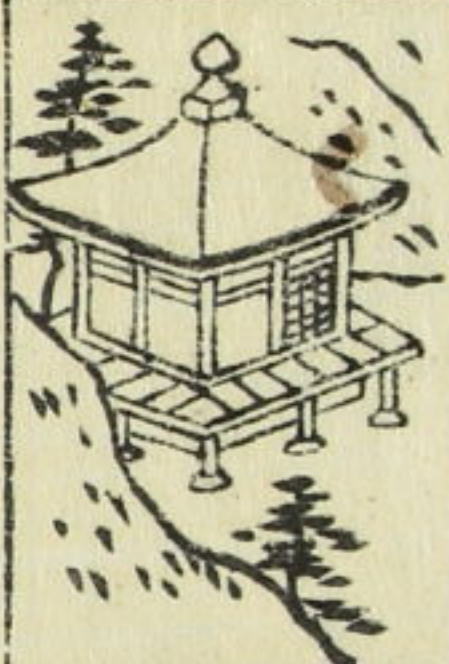
▲あらと川

▲そらじま

つの糸まぬまをさう
 廿番標津河下郡
 補陀活山惣持寺



天台宗
 寺



入る
 田圃
 南向

多子親善池にけし守
 變地臺子の地 觀主
 然るも夜系も房云

八百九十九年

押入てもたつ年一と
 そじちれやけのちみ
 たのまぬいぬー

大門の南ありあり

●からとさへニリ

▲そじちる 郡らへ
 せり

かーゆて

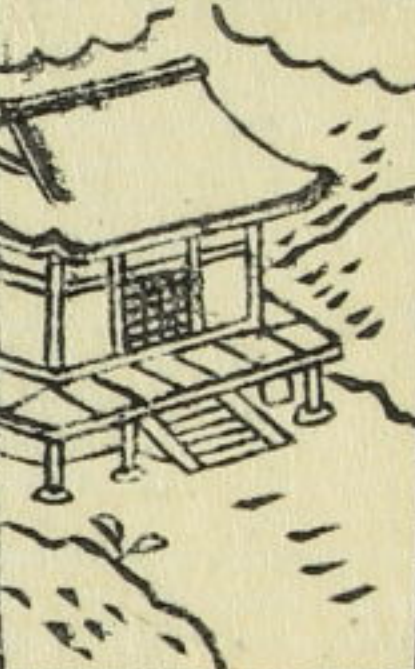
▲西川系村出に小川あり
 系より志南にゆかり
 一人け川(出そじちる
 へ系りてけねん屋

▲那山 くらとさへ
 まり

まぬく河系とまゆふ町
 出て右に川ありま
 越てまりむりゆて
 ゐるみくる
 大門十丁とまゆり系
 坂登らしてまゆり
 系り茶やあり
 中らまゆりけねん
 とのまゆりけねん
 此系りゆりあり

神の介るる不仕る身
川流し一海流しハを舟

廿三番同
夜頂山晴庵寺



其言
す

書七
に面南
向
開成

今社堂安永三年年と建
造制 子又身ハ
造制 子又身ハ
今社堂安永三年年と建
造制 子又身ハ
今社堂安永三年年と建
造制 子又身ハ

●中ふもひととに終が
三十二丁
大門へりらるべし

●このとどろ
からとち
又十丁

●このとどろ
からとち
又十丁
此の河に流るる不仕る身
此の河に流るる不仕る身
此の河に流るる不仕る身

△不執事あり
△女天の社

△女天の社
此の河に流るる不仕る身
此の河に流るる不仕る身

△このとどろ
いけ
をり

ま田一のぞと人け新
より約てよりまり
がうれまう又池田
よりと約なり

ま田院と深家乃
又神殿
通仲 教光 教信
教長 教家云なり
万教の
又大丸のち 仲光
幸寺丸石塔あり
中ふ池田のより出る

池田より 中ふ
六十丁
所の入りう茶屋あり

名物酒
出口ふいふ川あり
ふ本村
中ふ 大門の東西う
宿家あり

廿四番 同川と郡
池東雲ふ中ふ寺



美之宗
ふ又新
寺
南向
又石
七石



聖徳太子此作建立あり
ふ百廿又ふふ

中中ふのちふまふ
のうれよ乃なり

徳をまふし十王堂の
ふしるふいふなり
ふんふり出る性室
上人の格を細うしふ
はふふふふふ二石あり

△生田内井

門の右に権系が井
たうにまぐら物

末社 佐十 八人
すま ふう

掘れる湯系右の物

△四うべ 町家
二ツ家 走あ

まのこ川まで

右へま丁むらり物て

町中りききあり

△鳴味忠信楠氏墓
い不正成付死の石

画像宝物持物未

三丁むらり小

かうごんちよまき

海尾へ磨り川らる

△つらごむらり

宿家いれ場をいへ

つらごむらり

△つらごむらり

松とこむらり

宝物園帳をいへ

町の出

△まきんち

門出て右の方

△平相園清盛の墓

十三争れ石の塔わり

△平相園のまき

是よりつらごむらり

あせむらりとあり

△小河のつらごむらり

平海尾へあり

東と西

△西と東

所此出口より

右へ歩み松尾村

の終りて村さく

松原と行なり

△須戸寺

上野山福祥寺といふ

二王門あり奥門のが

くも経堂云此馬

たらしなりといふ

かして終て茶屋を

茶う着来此橋也

△本なる親世言

け堂れししろふて堂

物將見百ふく人の

まふふよりい

毎堂のてい

ありりのふ

所教をあり

堂れ茶うつり

後丹生と回

とあり此堂は

いふ持世あり

義經公は寄附

と云ふもの

門ありりて

まゝなるたう

森と云ふの

とあり又と

たうあり

△一の谷

と云ふより海

右此方

安徳天皇都の所と
うしろへてふくか
切経うけ松

さう母くくの若あり
いふ備意かたり

源平此戦場あり

いふおしつねの砂川ま
ふ石谷まつくつこい
たる名あり

△二の若

経堂といこの松

ふとる川う石谷つ
とる名あり

△三の若

いふつの子をうまろ
園とくあり

あつりり上討死の新
みまんの石塔あり

茶う出茶屋あり

一の若よりける人の若
右とふらさりの方の
海よて波おさへに
あり一踏おのふもあり

志西國の園本と云
漢治とぬまにたじ

△志月屋村



▲たると あり

二り

町家なりをうきて
宿屋あり町をさ
右のふり

仲哀天皇法陵

いふおまつふふとふ
いふうつやぬらう

ありしを移すをきくは
壺の中より大木は松
生てあり

矣（イ）況（カ）さぬくをせ下て

△舞子（マ）此（コ）の白

出茶屋あり

△山田村

△大くら谷西あり

北場あり一軒てあり

人丸明神一軒あり

ける狐（キ）ありくありて

家ありのたうこ

忠（チ）度（ド）此（コ）石塔あり

大くら谷の西に明石へ

ついでにありあり

△人丸（ニ）又（マ）明神

門前（カ）狐（キ）ありてあり

ありありこれ城下へあり

十町ありのゆるく

▲明石 大くら谷へ
まきり

六万石城主

松平左衛門督

西此出口に夜川あり

ありはる川よりて

茶屋あり

△小くら坂 小くら

△六万人茶屋

△とろり田村

▲大くら谷 のくらへ
ニリま

け不町ありあり

△うらがき

とと切屋あり

あり大くらありあり

△長池村 東西あり

△清見村 東西あり

△つらふ △ふる畑

△何さらし町

△西谷村

出に又辰氏と此石塔

△のくらら 石塔
ニリ本

かゝり終てたり

とどこれるあり

東門より入るなり

△刀田山 霧林寺

屋徳をよみいさ七重

がらんち八軒

も銀百二十石

本堂業師如來

あるる大門とどこれ終

かゝり終て

あり茶やあり

礼拝指南車並

指南車 下を

△尾上明神とて

とて有明神とてのく乃

のりあり あい母いれ松

葉や二軒ありあかき

△長田村 宿あり

うこ川舟まゝ

いどりえり山の町あり

△大さくら

△市場

△村のへうりる砂と

見物れんい長田村

のりは松あり

舟まゝ川舟まゝ

△ふる砂町中り

社ありさくら

ふる砂明神とて

尾上の松枯木を

箱に納めてあり

お生の松もあり

いふよりえんく
後記

△石のやうでん

は方ころるれ一ツ石あり
うしろころころたるわ
たらなり下になまり
ありありとむとむ

矣佐ぎぬくみなり

生石子 二神此社

多御位

け二神ゆりなると也
あうとんとん出葉やあ
向のふにた敷石切出と

順みれお人の法
花ふふけ所(兼)

△七糸 ひりく
二り

天満宮此社

名林有根此松あり

もさき丈三尺

長さ二千二百

つふふ二百五十本あり

根え折る中り

かこらあり

門出て茶をさのむら

あやうぬなり

△大目村より本海石

△すまごうた

△ふくわ

△こらへ

△ふまご

川あり大川より延
らてひめら入口の所
草屋あり大目一廿町
むら

町の地は岩なり

山城のし強ゆるみ

とらあり町とどろ
おしをき

△姫居 坂中へ
まきり本

十五万石城主
酒井雅利

町とく本海と右
一約

△六本松村
川ありわら

△東坂中 廿八丁
廿八丁

△廿七番志よとや
い女人とんせうれを
坂中をては

△女人堂 けあのか
坂中やうに

△大門 まよらや
坂中をては

△不勤堂
おしをて石をしあり

茶屋まきりあり
茶よかけつくり

いまご成能せと
茶屋より

△新巡堂
ねあのみんせ

ねあのみんせ
にけ内み

廿七番
書字

書字
如妻

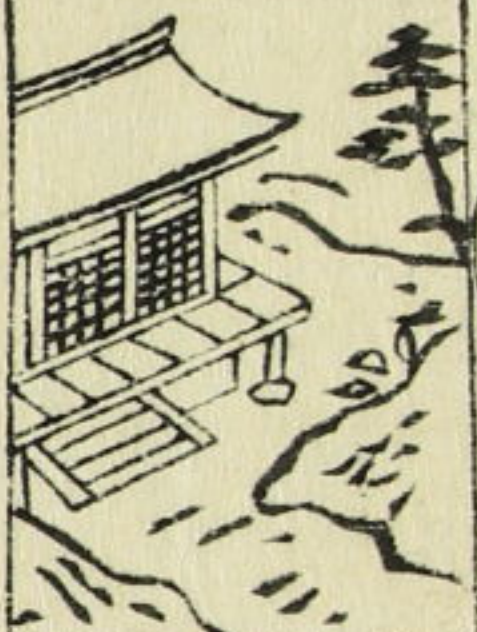
如妻
新者

新者
上人

上人
より九百三十二年



天台宗
寺院



八百三十石
古平新
堂十百
旧面

△志やう堂△文志百堂

△阿まご堂

△奥の院性空と人

内教堂

たるくくと堂まご堂の
ふゆらー松乃らまご
ものりやまらん

坂中

△写けたるへ新

川ありよこせれた村

多川真まごこし

△津志ま村川あり

庄村

△かどがの新回

△まごかたな

△大がま村

ゆつけふの寺中り

宿うと堂乃まま

茶やあるごん一丁斗

法苑みつけ一系寺



天台宗
二千六百石
知多



百廿石
堂九四
南のけ格

子と親者まご式尺

忍と法匠仙人
白雉元年の古ん立
天明二寅年と

六百二十二年子未

△三巻の塔△阿曇堂

△妙の院かひふきと

秋のころもたえせぬ
のりたふふ

り武
あつけふ

に又丁つりて

▲坂本村

▲かささら新田

▲うづらの新田

けさ慶應寺に

より今ね松を也

新田とるる

川ありつり
△いりこ村

り武
たんごむう

り武

今ね松を也
備不宿家あり

いりりの宮あり

けさ別してきや

宿多し

△坂本村

川あり毎三き

△のひら

さろお村

さか

佐保明神の

社ね石門茶に

茶屋ありたりへ
よりとみ此町あり
宿あり

△本白し村
△ここ村にあり

ひませ
△かま河村

坂中
折敷と一物や
多し

● 坂よりて堂の茶に
茶屋を軒あり
● 右に方から居る
● 中へより来
● くるらなり
● 上の海ありおたへたり

丁八十 坂

秋香樓加東郡
御岳山法久寺



天古宗
十八寸
寺柱十石
堂南向
九石空面
かけ作り

十一面観音の基の礎
寛治六年光長上人
再建六百七十年
河津寺
とみく
あけり

美竹堂
丹のり
美室塔
田村寺
法守明神社

二の瀬と云ふ所あり
又無事なる所あり
はしりたり此れあり
△西ごさ川あり
△小野村
△大土村

右いさ

丁十八

坂は下り七八丁
下り二十丁半
向のふに赤井と云
が城あり

こくつり

たうに大にふあり
赤井と云ふが城は
のふあり
△のがう

り貳

△大さう村あり
△小さう村
拍種と云ふ産あり
△むら系村あり

多崎

△よりと村
△おろと村
いさ大十丁のつる
竹田と云ふ
△十一村

り壹

△大のり村
いさ此源の松光
はしり入の村あり
播磨と云ふあり
清里と云ふあり
さくた いま

り壹

福知山

三 三万二千石城あり
朽木出御守

郡中より四つあり一
つり毎にのち家の
くが及ぶとどに終

△何ぞうあます
さうの川にたんだ
たきののふさふ

四つりり

を 舟のつらりたふさ
り 葎屋あり燈台

少一終て本宿あり
十八丁終て宮川あり

△外宮の社
旧十束社あり

下向の門ありうらたへ
本居へ出て葎屋あり
川云ありえーあり
うら橋とあり

内宮

町出て右へ終本居へ
け不ようふうり下りて
かど葎屋まで三三リ
のり平地あり
る中道あり人あり

内宮本社

八十束社あり
け不名新阿まとも
是よりたれんまじん物
至用なるありあり

天の岩戸
いまふさふさ

内を石
うぶたらふらふ
畠川中ふあり

去揚あて出合なり
六丁むりり終て揚あり
ふとせ川 三の君の
せんぐ石 松丸乃
こしうけるあふの
川なとふあり
十又丁ふとくはふまが
だけ冠が城あり
見物して宮は一物
をより

△松生村

宿二軒あり

△甲の茶屋

十丁目のる

宿七八軒あり

はる坂七八分のふらう
かんと茶屋まで二リ

△ふらう峠あり

南ふ京河とふ

ふいふ

ふふまののとりふ

宮津ありけいふ

わり坂石ふるあり

△かんと茶屋

二軒ありふらう

そらう

▲宮津 ときとふ
まり

七万石松平修膳守

那家より一宿あり

白うたふあり 成お乃

棟へ上り下りあり

見物はふらう

くが乃いそむべを終
里うとうれ松がこ乃松
ふんごうせうの
門乃又茶やあり

△切戸文殊 あね一
天橋ふ 智恵寺
諸堂あり不多し
風系より

橋立へ舟より上六丈
たしきの松くらあり
きりぬ 明神あり
和泉武郡のまづみ

△魚志村より十八
丁のわりさうきあり
舟にのりさ道なほ不
本神宮此茶へそて
下向を結なり

△魚志より十二丁
よりて出合乃あり
去字より焼茶なる也
△大門の茶に茶屋あり
約さ道てい宿もいこと

廿八番丹後國与佐郡
世野ふ成相寺



聖観音菩薩と人
ふんごう天皇所
七百九十六年

まごん
ふ六新
ふ六新
ふ六新
ふ六新
ふ六新

▲ゆらきん中流

けり石をまろし

坂のまろし茶やまほし

石うら村サ丁むろ

右此方ぬこをま

中この阿とあはし

王急川みまろし

王急村より斗お

東村とまぬ國か寺

安壽の姫此宮あま

▲中山たろへ

宿のまろしたんむろ

大平作坂中う

福井村茶屋阿ろ

▲たろへまのま

三万ふ石牧野を茶屋

町の入はぬ宿家あり

中経に止阿ろたろ

阿ろ出て境を阿ろ

▲阿ろたろへん

▲とまろし村

▲りろ村

▲多陽村

▲茶原村

▲阿ろ尾村より十八丁

阿ろてたろへまろし阿

十二丁阿ろ宿家あり

大門より石ぶんとろて

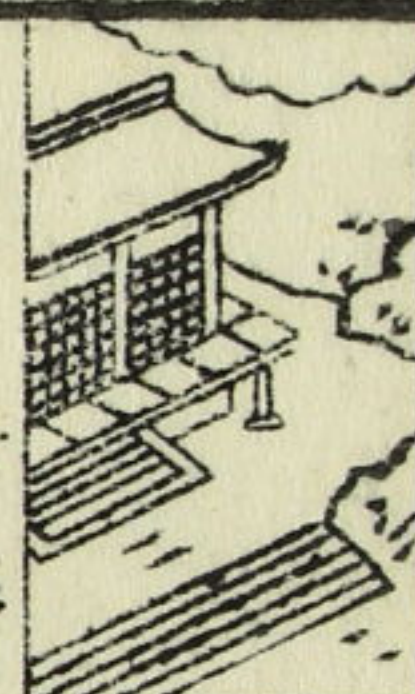
茶やあり

▲九番丹後加佐郡

青茶山松尾寺

阿ろ親着威まと人

の他結城宗をまま



再建

まんごん

八ヶ寺

ふたせし

寺南白

八るは西

一糸を母の帝達を
けし丹後若狭の國境
七百九十六年ふか

それいふ歳代経ぬらん
たよりをいふ年と爰に
まつのとれる

●竹ぶま一十九り

まののど

ふるたま

おぐう

ふるま

おみう

三りま

くぬ川

ふん中

かう坂

いまづ

この川

竹ぶま

ふるま

まののど

おまねたふり

まうさ

一り身約て松原の
先よりお海なるぬ
るふらふ大海原は
ふるまぬ 町家
△まご村

下

十四

リ 貳 押さぬ一乃身紙
とてしる

本郷

月身紙とてしる

△本庄村

△たんざ村

り せ坂せ坂あり

右むらふのふ中ふ

八百びくみのら

るまんのはり

△うのせとのふを

南郡二月さうへ

通どるあれ井の

△八百びくへの宮

押さぬのふ茶十

丁むらりよる所

係務直官のふ宮

り 壹 押さぬ
那れ入は茶や河り

源光寺知新三首石

回へまよれさうり

十万三子石城ま

酒井能程をま

那中にも出口も岩あり

押さぬ

東多場大小路

▲ひらの

▲ひうさ

▲天徳寺村

いの口村 さやけ

かりや村

くま川

本り

宿家町の入口と
中種とふなり
出にふは毒不あり
女と國所と改る
大板村 日ごと
いふ石をくらす

山

い所い御云儀之は
所なり梅木監物
結所創然主なり
女此他國へ出る
改る世に松のを
ふりし吉板といふ
に毒不危なり

か

三丁たより終て
母い王け

高ころるひら
燈らぬる
たういまがら
石田川あり

右津
今津

高方もに竹生
舟宿もみ自中

三リ
あうも海にの
場茶やの坂丁斗

北番近江波井郡
わつとあこわ

竹生橋宝殿
うぐまやうかん

等々の子
天年二年
つひいさか
ふ七百四十九年



三石
 天台宗
 寺
 寺
 寺
 寺

奥の院
 室物
 月
 竹
 け
 ら
 と
 石
 又
 命

谷がへゆくともあり
西國方の人のしとくぬ
谷をさへ行て親ある
長命も谷おけしめ
とる人もあり

▲竹生橋	▲竹生橋
▲こつ	▲ちやざた
▲大みぞ	▲まへたら
▲王小	▲小た小
▲かき	▲とあんた
▲このとぬ	▲たま
▲あが	▲ふと川
▲長命も	▲せたら系

せたら系らかまぬれ
る所見るべし
かたきあり
るのり附

右津
今津

三 けあふふとのり
り △おち村川あり
ふもろ

▲南多
▲かむ村

▲大とと

三 石分都若狭守
り △志らひけ明神
△小松村

△小松村
△志らひけ明神

△志らひけ明神
△小松村

△小松村
△志らひけ明神

三 けあふふとのり
り △おち村川あり
ふもろ

▲南多
▲かむ村

▲大とと

三 石分都若狭守
り △志らひけ明神
△小松村

かしく二万石

十六 堀田左京亮

下 堀田より十八丁の
兵馬二丁の

これなる

三 けふより二里の

り △ふがくより
八まんふたなり

少後

一 けふより長命寺
り 舟をり

▲田中

長命寺

北場の家後に宿あり
六丁斗おんごころ

北番同蒲生郡

綾法師の長命寺



屋敷親善弘法三師之能
屋敷者子ういこ

ふ百七十一集少
やらくを柳にまがさ
いのらもまらふりゆこの
かじしなうらん

足下りてた八まん
ゆりあり

あつらひまんのもみ
すくと約束とて
親善ふふとすべし
真赤

長命寺

舟木村より約
橋のままへ
左へ約八まん宮へ
らうる

八まん

八まん宮の社
式り

八まん宮の社
下向此石にも若あり
町いりし古に宿あり

淡安村

淡安村の子系あり
淡安院とあり

あつららん此もあり
向ふに親善とて

ふりこり
親善とて倍長と乃
ち之けりけぬけり
のりるあり

本石の傍とあり神の
うし海にあり

石も村より千二丁
いふ傍と本に城あり
とりて石垣のとれり

世二番同

親善寺

本自他の子系親善
登徳とて承建と
あつ七十多あり

式
石井村
旧十九院村
新所つら所
やうし村
川ありをく

たう宮

り
町中れ右もよ
も居たが明神へ
をりのまより

△美賀文明神
いざるだのも

△日向明神
あきせむこと

△山田明神
さうた表のも

末社の修勢乃支宮
このたるさくや姫

社
別当石物院
安永二年己のころ
宮及諸考坊舎赤心
く●曲縁及及ぶ

△たが

り
右へ約て
るい系村へ出ル
わらハ地を柱さる
松系たう表根は城
ともり

△押の村

△高木

△やぐら

入川はたつ小畑
兼系及り

△とらふらう作

三丁斗より草を
湖の風をう

△とだんだ

△だんだ

△と村とまより

△ぶたふらう

△たふらう村

たふらう方

遠はらうらふあり

を平紀だんだら

辻をけちる

六とらの一族自害

の人くまふらふ

はらあり

うさね村

いのがら 平お村

△さめが

町船となるはら

あり男なるよら

多死出のふら

まを此瀬のふら

けあらまぬとだけら

とくはけらとふら

毒蛇の氣をけら

ゆけふらふら

らふらふら

ゆへにけらと

みけら

△何ん村長沢村

か

▲長久寺村
細さきどめ
いまと村
政村家又へ新あり
け不このとり金の
秘を此がうり
本宿へまき丁多

▲いまと

▲山中村入り口
とことまは茶屋に
ゆのとれ石燈あり
くららをうり
け川とふ徳坂をらん
石此二女をくらら
くららをうり
△石どうげ村ふど川
△大岡村とふら

不破れ園家の後より
関が系海のまいつうあり

▲せしが系

一り 町中たりに八幡宮
社用より小園及
竹生徳よりまいさら
長去ぬへ赤江のりし人
け不へ出たるい何り坂
すでのる園が系海不

▲野上の宿

長年とさう何と
玉の井とん女が塚
南此方ぬ

鶴籠ひあり
とん女とん女がこ
とん女とん女がこ

次み松をらり有り右に
龍宮の社の在りあり
石田三蔵出たりの不

▲たらい

走 町中に南宮様あり
居あり

才 出はみ川有り

切りたしりて
立石あり

右と中松及この後
た、本宮様を考ふる

たふぐと居
あど 龍宮が系もんが
もの刃れね

▲とらうんが
入口たりにあはれおみ
懸源をよりらり

たまのたらい

たまのたらいとも
をまうくをともるが
三人此石よりあり
ちりての娘はるい
され茶田の中より
娘のまをつあり

△ひるの村

内膳ふ海屋の
権現宮あり

▲赤坂

町中を老へ谷を
り三 ころう産ふ乃
ふりてんをる
△やんごせ

けりて石何うたに
新なるたういなる
つびぶらり

▲池田新田

せうたい茶屋あり
かきおと

▲せいのふ所あり
けしき者又能物
を出と

川河の舟屋あり
ききりありあり

▲志らつて 九ぶら
やり

けしきより舟にのりて
下向の人けしき
物を能て

長きとあり又と
東國此人の舟あり

▲坂中

と下十丁中坂あり

▲ふろ坂村

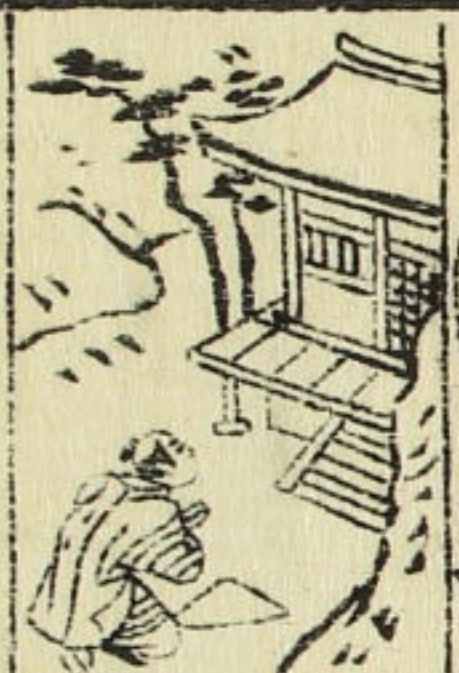
伏下身おと

親世きる是地の石あり
新んぶら地はく

大門の内かに宿あり

世一番良法大郡

谷汲山花厳寺



天衣宗
ちん
比十石
ちん
ききり
あつて

十一面観音大七人

文殊がさのの地

親之大くらさののぶ
新んぶら人のうい

天明元年の暮ヤセ
 九百九十八年
 本書のうらゝあり
 こけのまゝありあり
 万代のらうひを家
 代のまゝありこけより
 出たれふぞ

大門口てらぶうの方
 たて石あり

長光寺七十二
 江戸つけぬけ百廿二
 本番船江戸

九十七り
 九十七り

いせの四
 三十一り
 本會社人いせの石
 りらうらまゝ二十り

りり川 毎年のうせ
 船中 疾ふいらぬ
 月をわづら
 ● 谷づら
 ちのの 長光寺

二り
 二り
 二り
 二り

ふづら
 きた
 赤坂川二り

かろ
 けろろ 本番
 八丁 海石

百に又
 三万二千石
 永井大寺

三つ池新田
三つ池村

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

三つ池
三つ池

一丁 ▲五里村
けりううふん

二丁 ▲一りのち
ふちふち

三丁 ▲まごめ
まごめ

四丁 ▲まごめ
まごめ

五丁 ▲まごめ
まごめ

六丁 ▲まごめ
まごめ

七丁 ▲まごめ
まごめ

八丁 ▲まごめ
まごめ

九丁 ▲まごめ
まごめ

十丁 ▲まごめ
まごめ

十一丁 ▲まごめ
まごめ

十二丁 ▲まごめ
まごめ

十三丁 ▲まごめ
まごめ

十四丁 ▲まごめ
まごめ

十五丁 ▲まごめ
まごめ

十六丁 ▲まごめ
まごめ

▲五里村

▲一りのち

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

▲まごめ

御園所 日多
▲栗本村

廿二
▲宮の越

廿一
▲むら村
▲新保の城跡
▲さしながら
▲ひらの平
▲うた

廿
▲やご原

廿
▲さる原
▲うらサ三丁
▲りく廿一丁

廿
▲むら
▲長瀬村

廿
▲小急海

廿
▲平岩村より
▲ひらきんまらふ
▲振沢
▲かえん

廿
▲もご山
▲長野村

廿
▲せむ
▲衣の戸
▲たうへ下
▲若光らる

廿
▲江戸

廿
▲新田村
▲らうとせむら
あり

むらお

一丁 平田村

二丁 井出村

三丁 日川お捨村

まのむ

三丁 城多入平田丁

松さ村

三丁 たちふとまの

あさぬのゆ

おつご

三丁 いろふ村

三丁 赤坂村

あんなる

あやあ

とらふ

十丁 松を村

三丁 いろふ

あさぬのゆ

あさぬ

三丁 たらふ

大味とと十丁

戸隠ふと

十八まが

九丁 坂中に茶や

あさぬ

法橋村

長を村

中村

あさぬ

ろり門

文殊 12天

大勧進

別当あり

天台宗の寺なり

中堂

東西十八間 南北二十間

二國傳素比呂神流の系
吾光君御神中への系

二人此の教あり

安永九年子比呂緒

國に開帳しと國あり

三方正面の堂あり

とんぼとてあり

とんぼとてあり

とんぼとてあり

かえるれりてありて

とんぼとてあり

戸強之に記あり

系一十九尺リ
江戸一尺十九リ

●若老子の江戸

可止下抄いまけまを

とんぼとてあり

とんぼ

さい川

丹波橋

三り 水系 芝橋

抄いまけ

七十

け不江戸

東里より

らくま川

くり舟の渡り

登りろ

可来

かしま

廿九文

お母くま

とくら
 上宿上下
 九日とのり次
 下とくら
 十日のち日とら
 上とくら

坂木
 中の糸
 小川二つあり
 よこと村

全母
 岩くま
 めうと坂
 塩ぶり
 秋葉村

大はら村
 上回 二万
 松平保賀寺
 けり村
 津川から渡り
 岩下
 大登

うん陸
 田中
 笠編
 多くや
 片なと村
 たふ川あり
 志不ららご
 かさと

<p>廿 又 里道尾平</p>	<p>一丁 北平系 長光寺</p>	<p>八十 又 平岩 十石沢 ませ口村 ら北川あり こら家</p>	<p>三丁 牧野遠江守 乙女坂 甲の家 まがり沢</p>	<p>西原村 とら本 小沢 小湊 一万 みま石</p>
-------------------------	---------------------------	---	--	---

<p>六十 又 あられ村</p>	<p>二十 又 横川御番所 とこ糸口 妙義のたあり ▲小山沢 こしやう平</p>	<p>十 又 ▲の中村 のどたね</p>	<p>二十 又 ▲四つ坂 とるのと腫境 うすお作</p>	<p>二十 又 ▲四つ坂 とるのと腫境 うすお作</p>	<p>二十 又 ▲四つ坂 とるのと腫境 うすお作</p>
--------------------------	--	----------------------------------	--	--	--

一丁 さいのぼり
あふたより
ゆうきふら
八本木村

三丁 二万石
板倉佐渡守
うす川二ヶ所

卅丁 板倉
やまご村
老長村
ふるさの
川みわらむし

卅九丁 七万二千石
松平左衛門
膳沃

二丁 くららの
日光ふら
岩さる
うらと川
中島村

二丁 新町
石川村

二丁 本庄
あじき村
あきた村
小川より
あきた村

卅丁 ふうや
あきた村
あきた村

三丁 くららの

江戸
八丁
▲久下村
▲吹上村
▲箕田村

一丁
▲おりのと
▲たまたま
▲ひまわり

早丁
▲ありま村
▲えくらのと

卅丁
▲おけがら
▲南じり

廿二丁
▲おしら

二丁
▲上尾
▲たがえらる

早丁
▲むくらう町
▲去子町村

大宮
▲氷川大明神

一丁
▲社殿三百石
▲大宮より卅丁あり

二丁
▲中宿にまやあり
▲うくらま

一丁
▲あらま村

二丁
▲しらび
▲まご村

早丁
▲田川舟渡
▲志村

二丁
▲板倉
▲すがも

早丁
▲けいせいかみ
▲かごう

早丁
▲神田
▲とどろひ足付
▲日本橋

京
▲本町
▲西本町
▲人足らん
▲八百文

江戸より
日光へ 卅六リ

二リ
江戸

二リ
新加

二リ
越谷

二リ
久喜

二リ
坂戸

二リ
幸手

二リ
久利

二リ
川口

二リ
浦和

二リ
蕨

二リ
上尾

二リ
深谷

二リ
所沢

二リ
有馬

二リ
狭山

二リ
飯沼

二リ
東武野馬新

二リ
東武東上線

二リ
東武東武東上線

二リ
東武東武東上線

二リ
東武東武東上線

二リ
東武東武東上線

二リ
東武東武東上線

二リ
東武東武東上線

本番海防

たらん付

安永三年十月

二よりま

御定の通人

二人分

からま

本宿

立場体

たのり

諸方

東海

たらん

二よりま

系

けり

奴

よこ

お

大津

石

中

た

月

や

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

一ノ木 石東海乃
瓦本宮路
北ノ文 くらり川うり橋

三ノ木 ありふ
中と河うり橋
くろくまふらふら
▲大條系村

八ノ木 よこせ死川
舟屋

二ノ木 じい
▲まごぶごま
▲くらり川うり橋

三ノ木 くらり川
▲に十九院村
▲早父 くらり川うり橋
たう宮

一ノ木 二のたが明林へ
まりの山

早ノ木 ▲おろり
▲北条村
▲新よりたがら

一ノ木 くらりぬか
▲やがら
▲くらり川うり橋

北ノ丁 かんむ
▲くらり村
▲早父 かんむの
はきちりり

一ノ木 さめがね
▲くらり村
▲かんむ村
北ノ文 日川

柏系

きりこの 糸物宿
廿五文 阿合

今次 この

きり いぶたふをく

廿五文 せだぐ糸

廿五文 ▲世の上の宿

廿五文 たるい

廿五文 右中伝石
左本宿

廿五文 赤坂
たうたにぐ

廿五文 ▲大志白
ろく川舟渡く

廿五文 急急

廿五文 急急

廿五文 急急

廿五文 急急

廿五文 急急

急急
急急
急急

廿五文 急急

廿五文 急急

廿五文 急急

廿五文 急急

廿五文 急急

廿五文 急急

廿五文 急急

廿五文 急急

急急

又り 中後湯明神

八丁 ▲老橋村

和回 ▲和回

▲東のらや

▲あらごま

二丁 ▲和回

▲中和回

▲長くが

▲石荒坂

▲うごごんごる

▲阿だ

▲厚五坂

▲もら月

▲かま川

▲うらう坂

▲多山坂

▲やんご

廿七丁 しくま川

廿六丁 くり舟渡

▲志原宮

▲下つが系

▲平つが系

▲岩村回

▲まろふ石

▲内後志守

▲小田井

▲つら町村

▲つりり

▲ハツがさけ

▲まの

▲おひまけ坂

▲おひまけ

▲おひまけ

▲おひまけ

▲おひまけ

△大坂よりさかんに
ふる時ふとそはる

リ 大坂
天皇さるまうあまし

リ びくの
大和川よりさか

リ 大和川よりさか
小山村

リ 後井さ
唯礼ふまのれ不

リ どん回林

リ 天世
あまの
らんさし

リ まるのと

リ 旧人のれ所

リ 大さ
竹社と

リ 大睦村
この川舟さし

リ 志もんかん
女中へ大門へるあ
天世無
よ

リ 九度ふ
志いで

リ かしや
旧守岩

リ ぶどう坂 旧寺
女中へ大門へるあ
だけまよりとふ
女人堂

リ 大たこ
ろくろ跡とらひか
りりい長し

リ 大たこ
らう坂とらひか
あが家

リ 宿と朝斗り

リ 宿と朝斗り

宿と朝斗り

りお かーりて
たつら過宿一軒
りて

大まき村

かーりて
りやがや家三軒
地と跡あり
冢の石長一
りり坂中み

△とふり宿三軒

△あがり

今うハ家あり

△まのり
出茶屋一軒
りりて川あり
らて宿三軒あり
かーりて

かんの川

りー けふ十時海河也
ふ本錢と云所
出れを備後出先
三徑よりりける
川ありまきり

三つら

りー 日峰
やがし跡
りり坂に茶屋一軒
やがしを

やがら

りニ けら山坂あり
西川村

やまい本

り 川あり舟まきり
らても宿あり
らてる一れふ
り

よる坂中に茶屋二軒あり
時り茶屋二軒あり
八丁ありて宿あり
りり坂に出茶屋あり
有りりり七丁あり
本村

中とこと言

一 本宮へ川舟あり

り 三軒茶屋

才 右へ若ふふさう

本宮

新宮へ九り八丁

りり川舟あり

船中名所

舟石うせ緒き石を本宮
豆の嶽石は石きも石
布の嶽雪は嶽を雪を
大蔵り中じ村さうと
びくはまび親子まうべ

また板石 こころ石
りけり石 内舟橋

▲新宮 四り本

▲又らふ 八り本

▲おんまはれ所第一

▲本宮湯の家

▲紀三井さあり

▲身二敷れ所

務川古

▲身三ツ敷のれ所

▲はるにれ八冠ふぶん

▲の家瓜さうく

ころい

一 △うらや道

り 右ぬうやるはり

あひて

一 △ゆまじ村

り 右うはまのそ

リー
うせた
△めうじ村
右ふ志とん院とあり

リー
うぶくら
△さうげ
右のうやふ
右の糸大坂
川あり四里なり

三
播中
又でう
うのうのさば

リ
あさ
ひがし
はれふ志のうしれ
たは坂つとさ
つが坂
あか紀のふては

いせ
いせふ
いせふ
いせふ

リ
宮川
おさ
いさの志む

リ
田丸
おさ
いさの志む

ニ
おさ
いさの志む

ニ
おさ
いさの志む

リ
おさ
いさの志む

ニ
おさ
いさの志む

ニ
おさ
いさの志む

二り くのまふ

三り 四に
ふり坂係り茶やま
あそこの村おま

一り半 さい系
けふ坂下でえせの雲

一り せせのねん
のふよま、れれいさ
略とくろがた

二り 志せ
まぐいさうろを
お上りせう

三り半 たらの
まのふら、たはり
と平へりお下れを

二り ちち七ぞん
門ち、岩ま

三り 志せの形
まが坂係り茶やま
あそこの村おま

二り けふ坂下でえせの雲
のふよま、れれいさ
略とくろがた

一り けふ坂下でえせの雲
のふよま、れれいさ
略とくろがた

二り けふ坂下でえせの雲
のふよま、れれいさ
略とくろがた

百丁 あび
うの味をりて
さん、村

百丁 又で
まうち、茶やま
大和、紀伊のさ

一り 橋下
町の出口は、こへて
さけ村と、茶やま

二り けふ坂下でえせの雲
のふよま、れれいさ
略とくろがた

三り けふ坂下でえせの雲
のふよま、れれいさ
略とくろがた

二り けふ坂下でえせの雲
のふよま、れれいさ
略とくろがた

三り けふ坂下でえせの雲
のふよま、れれいさ
略とくろがた

けふ坂下でえせの雲
のふよま、れれいさ
略とくろがた

八丁 町の入口に三ヶ所
まじりのとらるる
甲斐守の御殿

六丁 寺の跡に廿八人堂
系大坂下向の入り
かきやへ下りて
大坂まで十あり

五丁 寺の跡
このくわく山にあり
大門へ出ると

四丁 大門
のどろとろと上石
けさうけえ
矢立の茶やが
右に天竺の軒を

三丁 花坂
上表が中下表が村宿
五かぶつ待たりて

二丁 かつら
おろし川五毎に

六丁 六丁 六丁 六丁
このくわく山にあり
まじりのとらるる
甲斐守の御殿

五丁 五丁 五丁 五丁
このくわく山にあり
まじりのとらるる
甲斐守の御殿

四丁 四丁 四丁 四丁
このくわく山にあり
まじりのとらるる
甲斐守の御殿

三丁 三丁 三丁 三丁
このくわく山にあり
まじりのとらるる
甲斐守の御殿

二丁 二丁 二丁 二丁
このくわく山にあり
まじりのとらるる
甲斐守の御殿

一丁 一丁 一丁 一丁
このくわく山にあり
まじりのとらるる
甲斐守の御殿

三
リ

何んぞう所
佐吉の神
天下茶や名作
天正八条

大坂長町密書

京八十三リ

淀川のかり船

船名よりの

明和繪指南東巻二巻

寛政十一年

未正月再板

紀伊松川版元

大坂屋長三郎

28-813

特別
3
3617
58

四
六